815
3

府廳設撰要類集 社寺

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

丙第拾六函一捌之十七

舊政府

撰要集抜萃

社寺

815
13
3

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用

東京府記錄科編脩記

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用

社寺之部

月録

寺院ニ布令

神職ニ布令

諸宗僧侶ニ布令

脩在家構佛壇祠事二付禁令

山伏行人出家等ニ禁令

寺院普請之儀二付布令

寺院古跡新地之定書

僧侶ニ下知状

寺社作事之義二付布令

以来新地之寺院禁令

大和國平群郡立野村神田明神社人ニ魚梁船支配差許ス

寺院類焼後普請手輕ニ可致旨布令
三拾三間由来之覚
神事舞太夫頭江申渡
諸寺院什物佛具等書入ニ而金銀備用之義禁令
諸宗寺院本末座階法系弊訴訟之義ニ付布令
寺社境内芝居能説經等ニ付禁令
寺社奉行連印之勧化願持參ノ向可致勧化旨布令
寺社方ニ附候町家之分町奉行支配ニ相成候事
寺社奉行所支配社地之分
町方支配場ノ内有之神社ノ
西本願寺京都末寺宗旨證文之儀ニ付評議
神職江渡定書
諸國寺社勧化之義ニ付觸書

京六孫王社ノ義普請ニ付達
鎌倉東慶寺江欠込候女ノ儀ニ付申渡
土御門家陰陽道職札ノ儀ニ付掛合
羽黒修驗觸頭観善院差出候書付
當山汎鳳閣寺役僧永昌寺差出候書付
一向宗改派歸參之義是迄取計區々ニ付評義
國々諸宗ノ僧侶江戸市中住居之義ニ付觸
町道場之儀ニ付寺社奉行ヨリ伺
出家山伏行人等町屋ニ住居ノ義ニ付禁令
町中表店ニ而念佛講等人集其外閒賬等停止之事
道場可引拂旨市中江觸
他國ヨリ借地借宅致勧化法用等ニ事寄セ佛壇神具等
取飾候者不差置様町觸

東京府

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一諸宗之僧觸頭ノ免無之者宅地等不貸様町觸

一同斷之義諸寺院江觸

一寺社境内江寄場取立候儀ニ付伺二通

一東本願寺由緒略記

一日蓮宗一寺住職之者ヲ本寺ヨリ退院申付候節ニ付寺社奉行江問合

一富士講ト唱候師職共以来不相成旨申渡候請書

一不二道ト唱候教ヲ帰依致候者相糺候事

一虚無僧寺掟書并覺書

一同宗武州青梅鈴法寺ヨリ差出候書付

一普化禪宗出張番所ノ儀ニ付取調書付

一普化宗流儀改革ノ儀ニ付寺社奉行申立

一同斷之儀ニ付町奉行勘定奉行評議

一同斷ニ付觸書案并一月寺鈴法寺番所ニ達案

東京府

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3　　ガラス使用

寛文三卯年十一月布令

覧

御當家被下淨土宗御條目之内自讃毀他最是為法衰之因諍論之
緣堅可制止下有之御書出之通以後息連宗ニ同前ニ被仰出之間向後
可相守若於違背輩者可被行罪科旨ニ候条令承知之末流等屹度
可申渡者也

十一月

寛文九己年七月

定

一諸社之祢宜神主等専学神祇道可其敬之神躰弥可存知之有来神
事祭禮可勤之向後於令怠慢者可取放神職事

一社家位階従前ノ以傳奏遂昇進輩者弥可守其通支

一無位之社人可着白張其外ノ装束者以吉田之許状可着之事

一 付不可入質物之事

一 神社小破之時其相應常々可加修復事

附神社無懈怠掃除可申付事

右條々可堅守之若違犯之輩於有之者随其輕重可沙汰者也

寛文五年七月十一日

定

一 諸宗法式不可相乱若不行歩之輩於有之者此度可及沙汰

不存一宗法式之僧侶不可為寺院住持事

付立新義可説奇怪之法度

一 本末之規式不可乱之假強為本寺末寺對シ不可有理不盡之沙汰事

一 擅越ノ輩強為何寺可任其心従僧侶方不可相争事

一 結徒黨企闘諍不似合事業不可仕度

一 背國法輩到来ノ節於有其届無異儀可返之事

一 寺院佛閣修復之時不可及羨麗事

付佛閣無懈怠掃除可申付事

一 寺領一切不可賣買之并不可入手質物事

一 無由緒者並有弟子ノ望儀不可令出家若無據子細於有之者其所之

領主代官江相断可任其意度

右條々諸宗共可堅守之此外先判之條教弥不可相背之若於違犯ノ者

隨科之輕重可沙汰之猶載不知狀者也

寛文五年七月十一日

寛文五巳年十月

一 備在宗構佛檀不可求利用之事

右之通り御法度ニ候間向後町中ニ而出家山伏願人行人等佛檀構候者

差置申間敷候従當年中ニ相改可申候正月ヨリ検

使ヲ出シ相改令違背者有之候者家主家守相応ノ者曲事ニ可申付候間

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

旨相守可申候以上

十月

寛文五巳年十一月

一町中山伏行人之看板并ホンテン自今以後出置申間敷事

一出家山伏行人頼入宿札張置可申事

一出家山伏行人頼入佛檀構候共無用之由最前ニ相觸候通違背仕間敷候但山伏行人頼入者諸旦那ヨリ祈念頼候ハヽ其時討繪像ヲ掛ケ祈念可仕候祈念仕舞候ハヽ繪像無用可仕事

一町中ニ而諸出家并法談説候共無用ニ可仕事

一町中ニ而念佛講題目出家并同行共寄合仕間敷事

十一月

寛文八申年二月

覧

梁間京間三間ヲ可限

但祈行者心次第タルヘシ

一佛檀ツヽ屋京間三間四方ニ限ヘシ

一四方レンロ疋京間壱間半ヲ限ヘシ

一小棟作タルヘシ

一飛知木作ヨリ上之結構無用タルヘシ

古堂舎容殿方丈庫裏其外何ニテモ元定ヨリ梁間廣ク作ルヘカラス若シ廣ク可作ノ子細於有之者寺社奉行所ニ申伺之上可任差圖候以上

二月

元禄元辰年四月

寺院古跡新地之定書

寛永八辛未年起立之寺院者古跡但當午年ヨリ丙午年迄八十八年ニ成申候習申年ヨリ起立之寺院新地ニ成申候

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

元禄元辰年四月

下知状

條々

一 僧俗之衣體並其分際可着之并佛事作善之㪚或八檀那無望之相應輕可仕事

一 檀方建立由緒有之寺院住職之㪚者為其檀那討之候條従本寺遂相談可任其意事

一 金銀ヲ以不可致後任之契約事

一 借在家構佛檀不可求利用事

一 他人者勿論親類之好雖有之寺院坊舎女人不可抱置之

但有来妻帯者可為各別事

右條々可相守之若於違犯者随科之輕重可有御沙汰之旨依仰達如件

寛文五年七月十一日

大和守
美濃守
豊後守
雅楽頭

元禄四未年八月

覺

一 古跡并領寺社方借添之地ニ作事並作出候㪚弥以堅ク仕間敷事

一 寺社門前町屋新起作り候㪚有不及申作出シ候事是又堅仕間敷候若於相背者門前町潰可申事

右之通此度可相守断無之於令違背者可為曲事者也

八月

元禄五年申七月

覺

唯今迫有来新地之寺院者御赦免之向後右跡同意ニ被仰付自今以後
新地之寺院堅停止之旨被仰出候但只今迫者新地寺院之内最早殆々
潰候分再興之儀並庵室之類寺院ニ取立候儀者彌以堅御停止之間可
被得其意候右之趣只今ニ迄度在々江被相觸候ニ者不及候面々書面之趣キ
被相心得被仰出ニ相違セサル様ニ可有御仕置候以上

七月

正徳三巳年七月

大和國平群郡立野村
龍田明神本宮之神人
安村喜右衛門

右大和川奥築船支配之事慶長以来喜右衛門先祖ヨリ數代支配仕
候處十七年以前立野村百姓共運上ヲ以相願候ニ付テ右百姓ト之
支配ニ罷成喜右衛代々之支配ニハナレ及難儀候由其上右川船支
配之助力ヲ以龍田明神之修復等仕来候處ニ以迷惑仕候旨相願候付吟度
被遂吟味候處先祖ヨリ數代十七ヶ年以前迄者支配仕来候段喜右
衛門相願候趣分明ニ候前御代迄来之諸運上御免被遊候時分ニ右
之趣相願候ト言ヒ故有ヲ不達上聞ニ付而此度如先起奥築船支配ノ
義喜右衛門ニ被仰付古来之通運上御免許有之候間右之料ヲ以龍田
明神修造ノ義自今以後無怠慢可仕者也

七月

享保三戌年六月

追而被仰出候義可有之候得共其内今度類焼之寺院普請之儀輕キ仕
候元焼失以前之間數ヨリ小ク作リ候様可心得候哉度々作候寺院焼失前
間數等何程ニ候得共此度相減何程ニ作リ候ト申義繪圖ニ仕差出候様ニ
可被致候事

普請ニ付旦方ニ奉加ナト申候共強ノセリ立候而者可為難義候間寺々ニ

而者心得可有之事ニ候能々寺々江申聞候様ニ本寺並觸頭共江寓下候
申聞可然候以上

六月

享保十巳年十月書上

浅草三拾三間堂由来之覚

一浅草三十三間堂者元来新両替町弓屋備後思立而地屋敷之義有一
松平伊賀守様江申上御公儀様江被仰上堂屋敷地拝領仕取立申候私
受取カラ木立討千五百両之契約ニテ寛永十九壬午年造立霜月廿二日
ニ相渡申候同二十未年ヨリ備後御弓之射手衆相集候而以前代等
取申事ニ御座候然共右カラ木立千五百両之金子一両モ私方江濟不申候
依之申上御訴訟申上候處ニ御公儀様ヨリ急度金子相濟候様ニト被
為仰付候得共如何仕候哉相濟候義成不申候ニ付甲申十月二日御評
定所江私並備後被召出松平伊賀守様松平出雲守様安藤右京進様
朝倉石見守様神尾備前守様御念議之上ニ而堂屋敷共ニ永代堺屋
久右衛門ニ被下候而為有奉存支配仕候由此度被為仰付則備後共
御拂被成堂地立退申候甲申十月二日拝領仕當年迄八十三年代々
支配仕候義ニ其紛無御座候事

定

一白銀五枚　堂銀
一同　六枚　箭矧見
一鳥目一貫文　燈明銭
一同　一貫文　招銭
右之通矢數被致候方ヨリ可被出之也
一鳥目一貫文　板銭
一同　一貫文　箭矧見
一同　一貫文　札銭

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

古之通堂前誓古之方ヨリ可被出之勿論堂守ニ断可有之縁之上ヨリ芝矢一切射ヘカラサル者也

古之趣御奉行ニ得御下知候之間違背不可有之者也

享保 年号 月 日

右御定目渡邉大隅守様嶋田出雲守様ニ御願申上覚文十年戌極月廿八日頂戴仕候

先年御修復被為仰付候覚

一 神尾備前守様石谷将監様御時明暦三年酉十一月四日為御修復料銀子百貫目拝領仕候

一 渡邉大隅守様島田出雲守様御時寛永十年戌八月十日為御修復料判金千両拝領仕候

一 島田出雲守様甲斐庄飛弾守様御時延宝八年申十月九日為御修復料金百六十両拝領仕候

一 甲斐庄飛弾守様北條安房守様御時貞享三年寅三月御小普請方ニ被為仰付御修復出来仕候

一 北條安房守様能勢出雲守様御時元禄六年酉九月十日為御修復料判金五百両拝領仕候

一 元禄十一年寅九月六日浅草三十三間堂類焼仕候ニ付則川口攝津守様松前伊豆守様ニ御訴申上候

一 同十月十三日松前伊豆守様ニ被召出堂地ノ義者御用ニ付被召上代地之義者追而可被仰付候由被仰渡候

一 同十二月廿三日松前伊豆守守様ニ被召出御代地之義深川八幡近所ニ而御渡被遊候段被仰渡其上御扶持大小三千六百本掛塚樽木六百廷被下置候間難有可奉存旨被為仰付候

一 元禄十二年卯五月廿五日深川ニ而只今之地面拝領仕候

一 御用之義諸大名様ヨリ勧金左之通割合ヲ以頂戴仕候

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

一金五両
但壱万石ヨリ二万九千九百石余迄
一金七両
但三万石ヨリ四万九千九百石余迄
一金十両
但五万石ヨリ九万九千九百石余迄
一金廿両
但十万石ヨリ十四万九千九百石余迄
一金三十両
但十五万石ヨリ十九万九千九百石余迄
一金四十両
但廿万石ヨリ廿四万九千九百石余迄
一金五十両
但廿五万石ヨリ廿九万九千九百石余迄
一金六十両
但三十万石ヨリ三十九万九千九百石余迄
一金八十両
但四十万石ヨリ四十九万九千九百石余迄
一金百両
但五十万石以上
勧金都合金三千五百四十三両
右之通割合勧金頂戴仕元禄十四年己十一月迄三不残御普請出来仕候
元禄十六年未十月廿二日夜大地震殿舎堂破損仕候ニ付則御許申上其後御
修復御願申上候得者宝永七年寅七月七日松野壹岐守様江被召出為御
修復料銀子五百枚御拵木二千挺持願仕候
正徳三年巳十二月廿二日之大火之節三十三間堂類焼仕候ニ付毎羽遠寺様

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

杜野壹枚守株坪内帳登守株ニ御許申
被為仰付被下候様ニ段々御願申上候得者正徳五年未九月十九日中山
出雲守様ニ被召出之手之通従御公儀御材木千七百三十四本御樽木
一万俵被下置候間難有可奉存旨被仰渡候
入用金之儀ニ先例之割合ヲ以御大名様方ヨリ勧金頂戴仕正徳六年申六月
迄ニ御普請不残出来仕候
右之通相違無御坐候以上

勧金

都合金三千六百廿八両
但以節ヲ斡字金也

享保十年己十月

堂守
久右衛門

寛政元酉年四月

申渡

神事舞太夫頭
田村八太夫

右名代之者手々正五九月御当地町中相對ニ而青襖之札相配来候處
中絶致候ニ付先規之通願出御聞届相濟候右紛敷者ニハ無之条組合可被
申通候

四月二十日

元文三午年四月

寺院並町方ニ觸出

近年諸寺院猥ニ其寺之本尊什物佛具並建具等書入又者賣渡ノ證
文ヲ以借用致候寺院ニ有之不埒ニ候向後右之品質入或ハ賣渡證文ヲ以
金銀致借用候當人者勿論證文迄モ吟味ノ上急度可申付候尤金子貸
ニ右之品質物ニ取り或者賣渡證文ニ而金子借候段不埒ニ付金子濟方

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

之儀訴出候共向後齋方申付間敷候

四月

寛保元酉年十一月

諸宗之寺院本末論或錄復産階法系住番世牌等其外法式ニ掛候公事訴訟者其錄所觸頭寺等ニ而遂一遂吟味依狀體員無之可令裁断事ニ候申付ニ致違背不相受候ハヽ弥可申付候尤他宗又者俗人江掛候出入者唯行所江可差出候吟味之上屹度可申付候

令追之通添簡ヲ以可差出候

右之通り諸宗一統可相心得候

十一月

正徳四午年三月

寺社境内芝居之儀ニ付申渡

寺社境内ニ有之能説經操物マ子等芝居之事元禄年中既ニ停止之處ニ訴訟之旨有之就而其法ヲ定ラレ芝居ヲ元事輕ク構ヘ衣服等モ木綿ノ外ヲ用ヘカラサル由ヲ以免許セラレ候然處近年已来ニ階梯敷等ヲ構ヘ衣服等モ是ニ准シ諸事結構ニ及候次第不届之至ニ候依之自今以後此度彼芝居等一切ニ禁制セレノ候者也

三月

寛保二戌年四月

諸國寺社修復為助力勧御免之上寺社奉行連印之勧化狀持參候寺社領寺社領在町致迚行候寺社之輩ニ者只今迄村方ニヨリ勧化停止之旨地頭ヨリ申渡有之候間勧化難成由断申所々モ候段相聞候私之勧化相留候筈領主之心次第ニ候従公儀御免之上諸國巡行之事ニ候条寺社奉行連印之勧化狀持參候寺社之輩ニ者志次第可致勧化旨御領者御代官私領者領主地頭ヨリ兼可申聞置候

右之通可被相觸候

延享二丑年壬十二月十四日酒井雅樂頭ヨリ達ス

町奉行ヘ

寺社方ヘ附候町屋ノ分者向後町奉行支配ニ相成候間可被得其意候寺社奉行可被談候

廿壬十二月

寶暦十辰年十二月寺社奉行ヘ達ス

寺社奉行支配社地之分

永田馬場

一山王大權現　社地内住居

別當觀理院

神主　樹下民部少輔

社地内住居

南菊場町續

一山王御旅所　別當觀理院支配

知泉院

赤坂今井壹

一赤坂氷川大明神　同神主樹下民部少輔支配

諸井帶刀

赤坂木町續氷川明神御旅所　社地内住居

別當　大乘院

一辨財天　社地内住居

湯島町續

一神田大明神　神主　芝崎豊後守

神明町　社地内住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

一芝神明

湯島

一湯島天満宮　神主　西東豊前守
亀戸町續　同　同　西東糸女
一宰府天満宮　別當　同　金剛院
市谷八幡町　上野御本坊住居法雲院事
一市谷八幡　別當　喜見院
浅草茅葺町藏地續
一石清水正八幡　別當　大護院
芝田町七丁目　芝田町七丁目町屋地面ノ内住居
一三田八幡　別當　無量院

麹町平河町
一平河天満宮　留守居　真行院
深川　社地内住居
一冨賀岡八幡　別當　永代寺
同所永代寺門前町屋向　永代寺地中
一恵美須宮　宮寺　東光院
深川永代寺門前町屋續
一稲荷　同所
同所　同寺持
一摩利支天　深川永代寺地中
同所　堂守　大勝院
一大勝金剛　右同断
同所

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一荒神
御船蔵前町續深川八幡御旅所
一八幡
小梅本町
一三圍稻荷大明神
宮永町續
一根津權現
小石川元御殿脇
一白山大權現
芝
一愛宕山大權現
須崎村
一牛御前
堂守 海岸院
深川八幡別當
永代寺持
小梅代地町續ニ住居
別當 延命寺
社地内住居
神主 伊吹左門 同別當 昌泉院
社地内住居
神主 中川兵部
同所住居
別當 圓福寺
北本所表町之内住居
別當 最勝寺

本所表町續
一神明
南品川貴船門前町
一貴船大明神
北品川稻荷門前町
一稻荷大明神
小石川金杉水道町續
一牛天神
小石川諏訪町
一諏訪大明神
大塚久保町
一牛天神
駒込前町
社地内住居
別當 神宮寺
社地内住居
神主 鈴木兵衛
社地内住居
神主 小泉出雲守
社地内住居
別當 龍門寺
同寺持
同寺持
本郷四丁目住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一富士大權現
千駄ヶ谷
一神明
牛込
一赤城明神
愛宕下佐久間小路
一烏森稲荷
新材木町續
一椙森稲荷大明神
千駄ヶ谷町
一正八幡
牛込高田
別當 瑞泉院
社地内住居
神主 小川齊宮
社地内住居
別當 等覺寺
社地内住居
別當 快長院
神主同 山田民部
社地内住居
神主 小針和泉守
社地内住居
別當 瑞圓寺
社地内住居

一穴八幡
牛込高田
一水稲荷
牛込高田
一天神
牛込築土
一正八幡
同所
一築土大明神
市谷田町二丁目裏通
一稲荷大明神
白金村報恩寺地内
一白金氷川明神
別當 放生寺
社地内住居
別當 宝泉寺
社地内住居
別當 真定院
社地内住居
別當 無量寺
社地内住居
別當 成就院
社地内住居
別當 教藏院
根津權現神主
伊吹左門持

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

白金村
一路鳥木林神明

下目黒町境
一大鳥大明神
深川久右衛門町續
一洲崎弁才天
深川元町之内
一神明
妻戀町
一妻戀稲荷
浅草田原町向側

白金村住居
別當 報恩寺
同断
報恩寺持
下目黒村住居
別當 大聖院
社地内住居
別當 吉祥寺
葛江村住居
別當 泉養寺
社地内住居
神主 村本内記
下谷金杉村住居

一三嶋大明神
橋場町續
一神明
元鳥越町
一鳥越大明神

平右衛門町續
一第六天神
聖天町
一聖天
八町堀稲荷橋際
一稲荷
浅草天王町

別當 西藏院
社地内住居
神主 鈴木兵部
社地内住居
神主 鏑木飛弾守
別當同 長楽寺
社地内住居
神主 鏑木出羽
社地内住居
別當 本龍院
神田明神神主芝崎豊後守社家
神主 甫喜山主殿
社地内住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一牛頭天王
佃島
一住吉大明神
泉鴨町
一稲荷大明神
金杉水道町
一稲荷大明神
小石川御殿脇
一氷川明神

同下富坂町
一稲荷大明神

別當 大圓寺
社地内住居
神主 津守日向守
社地内住居
別當 霊感院
社地内住居
別當 寿性院
小石川橋戸町續住居
別當 宗慶寺
同火之番町住居
神職 鈴木義濃守
社地内住居
別當 大聖院

小石川春日町
一稲荷大明神
牛込赤城下
一八幡
牛込横寺町
一朝日天神
柏木町
一鎧明神

同所
一天神
戌子町
一天神
牛込早稲田町裏通
一天神

社地内住居
別當 地福院
社地内住居
別當 宝蔵院
社地内住居
別當 泉蔵院
柏木村住居
別當 圓照寺

同寺持

同寺持
赤城明神別當

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一神明
牛込原町一町目
一神明
雜司谷
一兒子母神
牛込枝町
一兩社稻荷大明神
雜司谷町
一七面大明神
同所
一三十番神
等覺寺持
社地内住居
別當長明寺
雜司谷法明寺地中
別當大行院
同所住居
別當南藏院
同寺持
社地内住居
別當本淨寺
社地内住居
別當本深寺

中之口元町續
一業平天神
同所
一正一位明光稻荷
南本所荒井町續
一第六天
同所
一八幡
中之郷原庭町續
一稻荷大明神
中ノ郷五ノ橋町續
一稻荷大明神
海邊大工町裏通
社地内住居
別當南藏院
同寺持
番場町續ニ住居
別當普賢寺
番場町續ニ住居
別當泉龍寺
社地内住居
別當光德寺
社地内住居
別當自性院
農江村住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一蒲穂稲荷
深川佐賀町
一正一位稲荷大明神
本所一ツ目
一辨財天
赤坂御門外
一玉川稲荷明神
赤坂田町四町目
一西行稲荷明神
関口目白坂
一正八幡
別當泉養寺
社地内住居
別當清光寺
同所住居
惣禄豊勝撿校持
擔物町住居
別當勧善院
氷川社僧屋敷住居
別當明王院
社地續住居
別當銅雲寺
関口堂町幸神社地内住居
神主宮城島攝津
関口町来権山
一正八幡
同断
別當銅雲寺
同断
神主宮城島攝津
社地内住居
関口葺町
一幸神
元飯田町中坂
一田安世継稲荷
社地内住居
別當宝蔵院
神田明神神主
芝崎豊後守社家
四谷南寺町

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一牛頭天皇
稲荷大明神

赤坂新町三丁目續

一鉾降稲荷明神

小日向八幡坂ノ内

一氷川明神

同所七丁上

一菊 六天

牛込若宮町阪上

一若宮正八幡

浅草駒形町續

一浅草清水稲荷大明神

池ノ端七軒町續慶安寺地内

一七藏稲荷大明神

神主 甫喜王殿
社地内住居

別當 顯性院
社地内續住居

別當 日輪寺
小石川牛天神別當

龍門寺持
社地内住居

別當 普門寺
上野御下御花畑住居

上野宮司 田中松泉持
池ノ端七軒町續慶安寺地内住居

別當慶安寺

下谷町二丁目續

一下谷牛天神 相殿
五條天神

下谷廣徳寺前

一下谷稲荷大明神

同所二丁目續

一境稲荷大明神

柳原岩井町前土手下

一柳原山稲荷大明神

本郷二丁目横町續真光寺地内

一天 蒲 宮

麻布今井甲

一氷川明神

麻布樓木町

同所住居
御連哥師

瀬川昌郁持

下谷二丁目住居

別當正徳院

社地内住居

別當本隆院

社地内住居

別當大秀寺

社地内住居

別當真光寺

社地内住居

別當成徳寺

社地内住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

一霞山正一位稲荷
永岸町
一誕生八幡
麻布谷町
一稲荷
龍土畔
一神明
同所
一八幡
品川臺町
一忍田稲荷
芝車畔
一正一位稲荷大明神
別當 觀明院
社地内住居
別當 高福院
社地内住居
別當 覚源院
社地内住居
別當 長泉寺
同寺持
同所住居
神主 山口主馬
社地内住居
別當 大宝院

飯倉的場屋鋪續
一赤羽稲荷大明神
麻布北日ヶ窪町續
一稲荷大明神
麻布永坂町續
一稲荷大明神
別當 龍王院
社地内住居
別當 圓明院
麻布本村町
氷川明神
別當 徳衆院持
社地内住居
別當 龍王院
社地内住居
別當 本龍院
同院持
社地内住居
別當 徳衆院
宮村町ニ住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一稲荷大明神
麻布阪下町
一未廣稲荷大明神
飯倉町四丁目
一熊野三社大権現
飯倉一丁目
一西久保八幡
三田一丁目二丁目堺
一春日大明神
三田南代地町
一稲荷大明神
三田久保町
一元神明
別當 千藏寺
社地内住居
神主 中村播磨
社地内住居
別當 正宮寺
社地内住居
別當 普門院
社地内住居
別當 神宮寺
飯倉町一丁目八幡別當
普門院持
社地内住居
別當 不動院

南小田原町一丁目
一稲荷
霊岸島銀町四丁目
一稲荷大明神
同所
一稲荷大明神
諏訪町
一諏訪大明神

深川奥川町住居
別當 一万徳院
社地内住居
別當 泉住寺
八町堀松屋町住居
神主 鈴木主殿
浅草寺地中
別當 修善院
馬喰町二町目住居
神職 村山左内
社地内住居
別當 松林院
元鳥越明神
社地内住居

今井町
一八幡
新鳥越町

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

一熟田大明神
山谷町
一玉姫稲荷大明神
谷中新堀町
一天照皇大神宮
下谷坂本町四丁目續
一小野照崎大明神
浅草新寺町正福院地内
一柳稲荷大明神
小石川原町續
一稲荷大明神
同所
一天神

神主 鏑木飛弾守
橋場町住居
別當 不動院
同所住居
別當 妙隆寺
下谷坂本村入谷住居
別當 嶺照院
浅草新寺町住居
別當 正福院
同所住居
別當 本念寺
同所住居
別當 龍泉寺

駒込富士前町續
一明神
音羽町續護國寺境内
一今宮大明神
浅草山ノ宿町續
一一之權現
青山原宿
一熊野三社大權現

社地内住居
別當 大泉院
護國寺地中
別當 蓮花院

別當 顯称院
社地内住居
別當 淨性院
芝神明社家
神主 河野主馬
同所住居
別當 龍眼寺

柳島村
一神明
同所

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一妙見
本所新町續牛御前旅所
一牛御前
大久保村
一天神
牛込原町壹町目長明寺地内
一神明
大久保村法善寺地内
一七面明神
四谷内藤新宿後口
一三光院稲荷
四谷内藤新宿追分
一子安稲荷
別当 法性寺
牛御前別當
寂勝寺持
社地内住居
別當 大正院
同所住居
法善寺持
四谷天王横丁愛染院持
院代 三光院
市谷佐内坂住居
別當 重寶院
浅草山川町際
荒波観音地内
一合力稲荷
上戸塚村亮朝院地内
一七面明神
下高田村
一永川明神
不忍池
一辨財天
六軒茶屋町
一稲荷
青山御掃除町
圓通院地内
一稲荷明神
龍泉寺村
同所住居
別當 良寶院
同所住居
別當 亮朝院
同所住居
別當 南藏院
上野本坊御持
留守居 宝珠院
大崎村住居
德藏寺持
同所住居
別當 圓通院
同所住居

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一千束正一位稻荷大明神
芝永井甲金地院前
一幸稻荷
松島町
一松島稻荷大明神
東叡山御下屋敷新屋敷
一（千財門稻荷 進休庵稻荷 御霊宮）
本所五ツ目五ノ橋村
一愛宕
谷中新堀村
一諏訪明神
九大明神
本所元御蔵屋敷
一辨財天
別當龍泉寺
社地内住居
神主長岡備前守
上総國茅間村住居
神主根本常陸介
東叡山寶光堂住居
別當妙敎院
中ノ郷七町續住居
別當成就寺
同所住居
別當浮光寺
南本所番場町住居
別當即現寺
深川北松代里四町目
亀戸天神旅所
一天神
牛込辨財天町
一辨財天
大久保村
一辨財稻荷
市谷四甲月
一稻荷
渋谷金王樓
一正八幡
右之外
小網甲二町月裏通
一稻荷
亀戸天神別當
菅原信隆持
牛込枝町住居
宗三寺持
同所住居
別當二尊院
同所住居
別當光照院
同所住居
別當東福寺
同所住居
別當瑞應庵

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

是者安藤對馬守屋敷内ノ稲荷ノ由ニ有之然共トウカン堀ノ稲荷ト唱
世上ニテ能存候稲荷ニ而小網町二町目町屋裏通之義ニ有書出申候
右ハ寺社奉行支配ノ社地ニ而近邊町方支配ノ町々ヨリ為書出候間相違
之義又者相洩候モ可有之且又右之内ニハ修驗者等守護仕候類社号号
ト相唱候神社モ可有之哉是等ノ義者町方支配ニ而無之候間猶以相分
不申候以上

辰十二月

寺社奉行 正達ス

奈良屋市左門
喜多村彦右門
樽屋與左衛門

寛暦十辰年十二月

町方支配場之内ニ罷在候神職之者町方支配ニ而無之場所之神社
守護仕候分

音羽町護國寺境内
一吹上稲荷大明神

駿河臺小普請半牛之助屋敷内
一神明 八幡 山王 四社
稲荷

小石川小普請
船甫河内守屋敷内
一稲荷

小石川中奥御小性
水野備中守屋敷内
一稲荷

小石川火之番町ニ住居
神主 毛利數馬

神田金澤町ニ住居
神職 中村能登守

神田金沢町住居
神職 長岡内匠頭

神田金澤町住居
神職 中村能登守

小石川水道町ニ住居
神田紺屋町二丁目代地住居
神職 村上近江

高木町二丁目住居
神職 内田淡路守

神田松下町代地向
横瀬駿河守屋敷内
一稲荷大明神

神田紺屋町二丁目代地住居
神職 村上近江

濱御殿地ノ内御船手組中鎮守

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

一水主稲荷大明神　神職　右同人
御茶ノ水松平飛騨守屋敷内　神田三河町四丁目裏町住居
一神明　神職　阪木志摩
四谷塩町大澤丹波守屋敷内　市谷田町四町目住居
一稲荷　神職　緒嵜近江守
右者護仕候神社者先々町方支配場ニ而無之候間相違ノ義モ有之又者相
洩候モ可有之哉ニ存候以上
辰十二月
寶暦十辰年十二月　寺社奉行エ達ス
町方ノ支配場之内ニ有之候神社之分
神田富松町ノ内　同所住居
一清水扇子稲荷　神職　森田壱岐守
右ノ社御馬口附ノ者持領ノ町屋敷内ニ前々ヨリ有来右之壱岐守モ右ノ持領町屋敷
地借ニ而地面貸置候内神主ニ為仕候由申之候
芝口三町目内　同所住居
一日比谷稲荷　別當　寂静院
右之社家持本役見傳兵衛地面ニ前々ヨリ有来右之寂静院儀モ同人地借ニ而
別當為仕候由申之候
本湊町一丁目ノ内　同所住居
一正一位東止舟蛭子稲荷　別當　普門院
右之社家持源七地面之内ニ前々ヨリ有来右之普門院義モ同人地借ニ而別當為仕
候由申之候
霊岸寺四日市町ノ内　勢州住居
一大神宮　慶光院持
右之社者慶光院持領屋敷内ニ前々ヨリ有来外ニ別當神主モ無之候
八官町之内　同所住居

一正一位稲荷大明神
　右之社家持リ之地面ノ内ニ前々ヨリ有来右之主腊者同人地借ニテ守護為仕候右
　者八宮町之鎮守ニテ社地之地代者町内ヨリ出シ遣候由申之候
　　下ケ札
　　以稲荷之義ニ而者穀豊稲荷ト申習シ候得共殿ト仕候社号ニテ有
　　無御座候由申之候
豊町之内
一正一位玉木稲荷大明神
　右之社家持ムツ地面之内ニ前々ヨリ有来候右之下総某者地主ムツ父ニ而同居
　仕神主仕候由申之候
南槙町之内
一正一位中富稲荷大明神
　右之社家持太右衛門地面之内ニ前々ヨリ有来右ノ出雲某ニ同人店借ニ而鎮

神蔵　宇治川主腊

同所住居

神蔵　鈴木下総

同居住居

神蔵　杉本出雲

ニ付置候由申之候

三島屋敷之内

一正一位末廣稲荷大明神

　右之社御呉服師三嶋吉兵衛幷領町屋敷之内ニ前々ヨリ有来候右常陸

上総國菜間村八幡神主

根本常陸

相頼守護為仕候由申之候

下槙町之内

一福壽稲荷

　右之社家持義兵衛地面之内ニ前々ヨリ有来右長命院者同人地借而

守護為仕候下槙町福島町鎮守ニ而社地之地代者右両町ヨリ出遣シ候由

申之候

同所住居

別當　長命院

本材木町三町目之目

一正一位祐稲荷大明神

　右之社家持源七地面之内ニ前々ヨリ有来同人地借壹岐相頼神主ニ付置候

神蔵　祐永壹岐

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

由申之候

八町堀新銀町
同金師町同柏下町　代地莫上地之内

一正一位鳥居稲荷大明神

右之社右三ヶ町持地面之内ニ前々ヨリ有来右新銀町代地徳兵衛店借り
福本院ニ守護為仕候由申之候

通二町目新町之内

同所住居

別當　福本院

一正一位鹿児島稲荷大明神

右之社御医師久志本式部拝領屋敷之内ニ前々ヨリ有来同人地借左
近相頼守護為仕候由申之候

元大工町新道之内

同住居

一正一位谷房稲荷大明神

右社御医師野間玄琢拝領町屋敷之内ニ前々ヨリ有来同人地借権之進
頼守護為仕候由申之候

浅草瓦町之内

浅草牛頭天王

一正一位稲荷

別當　大圓寺

右社家持権左エ門地面之内ニ前々ヨリ有来右大圓寺相頼別當為仕候
由申之候

同所苧町

同寺

一正一位稲荷

別當　右同寺

右社御藏牛代拝領町屋敷内ニ前々ヨリ有来右大圓寺相頼別當為仕候
由申之候

浅草福井町之内

同住居

一銀杏八幡

神職　清田丹後

右福井町之戈者町奉行所附之地面ニ而町人共社建立丹後戈町人共ヨリ神
主ニ相置候由申之候

山谷浅草町之内

本所亀戸村住居

一 法師稻荷

古社淺草寺領年貢地淺草町之内ニ前々ヨリ有来右社地者町内持之地面而東覚寺ニ別當為仕候由申之候

箱崎町二町目河岸

一 永久稻荷大明神

右社箱崎町二丁目之鎮守而同所治左衛門店借大和相頼守護為仕候由申之候

箱崎町二丁目住居

神職 吉岡大和

橘町四町目之内

同所住居

一 玉尾稻荷

右社家持勘兵衛地面之内ニ前々ヨリ有来町内鎮守ニ有之候處當二月類焼致勘兵衛地面看地狹ニ付同町之内御医師幷領町屋敷之内町人共借受社引移右祭文モ右地面店借而守護為仕候由申之候

神田明神神主
芝崎豊後守社家

天馬町二丁目之内

別當 東覚寺

一 寶田稻荷大明神

右社町内鎮守而町内持地面之内ニ前々ヨリ有来右玉殿ニ守護為仕候由申之候

神職 南嘉山主殿

大傳馬塩町之内

同所住居

一 八馬木稻荷大明神

右社家持勘解由地面内ニ前々ヨリ有来右安房義モ同人店借而守護為仕候由申之候

神職 齋藤安房

通旅籠町之内

同所住居

一 池渕稻荷大明神

右社延壽院所持之町屋敷内ニ前々ヨリ有来則延壽院別當仕候由申之候

別當 延壽院

新大阪町之内

元鳥越明神別當

一 正一位立社玉子稻荷大明神

右社家持佐次兵衛地面内ニ前々ヨリ有来右長樂寺相頼守護為仕候由申之

別當 長樂寺

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用

候

但此稲荷有之候地所ニ者前々ヨリ篠塚稲荷ト申社有之候處三年以前
寅年同社者外ニ引移し右跡ニ本文之稲荷別段ニ勧請致候由申之候

本所業川町二町目裏通ニ牛跡之内　本所猿江住居
一枝稲荷大明神　別當　泉養寺

右社町屋裏通ニ牛跡之内ニ前々ヨリ有来右泉養寺別當為仕候由申之候

本所徳右衛門町一町目河岸　浅草東覚院地中
一元徳稲荷大明神　別當　蓮成院

右社町内ヨリ勧請仕前々ヨリ有来右蓮成院別當為仕候由申之候

右名主行事ニ申付為書出候處書面之通申立候

辰十二月

明和七寅年七月

一西本願寺京都末寺宗旨證文之義ニ付寺社奉行町奉行評議

去ル三日御渡被成候西本願寺ニ而都末寺宗旨改之義本山ニ而取集役共奥印
形ヲ以町奉行所ニ本山ヨリ差出候様致度旨別紙之通以使者町奉行所ニ
被申聞候趣評議仕候處右末寺宗旨改之義者前々ヨリ町内宗旨改帳
面ニ結込俗家同様町内ヨリ差出来候處先年西本願寺家来ヨリ相願候
者宗旨帳面末寺ヨリ町奉行所ニ直ニ差出候歟又者寺法取縮ニ相成候
得者本山ニ宗旨改帳面不調本山ヨリ差出候様致度旨申出候處其儘差
捨り候義者先是迄之通可相心得旨申渡候趣留書ニ相見候由此度之義
者江戸大坂末寺共宗旨改同様ニ被申立候義且町内印形相除候迚ニ而
諸事是迄之通相違無之旨申出其上寺法取縮ニ相成候旨再三被相願
候ニ付町方ニ紛有之候處右末寺町役等之儀是迄之通相違無之候得者何ノ
差支無之旨町ニ一統申之候由而先達而東本願寺ヨリ右願有之御尋
之節評議仕申上候趣同様之義ニ付西本願寺被申立候通右末寺宗旨
改本山ニ取集一帳面ニ仕立役人奥印ニ而本山ヨリ町奉行所ニ被差出候様相成

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

候而モ差障候義有御吐聞敷奉存候依之先達而御渡被成候書付二通返
上仕候

七月

天明二寅年十月

定

一諸社之称宜神主等専学神祇道所其崇敬之神躰弥可存知之有来神
事祭禮可勤之向後於令怠慢者可取放神職事

一社家位階従前々傳奏遂昇進輩者弥可為其通事

一無位之社人可着白張其外之装束者以吉田之許状可着之事

一神領一切不可売買質支

附不可入手質物支

一神社小破ノ時其相應常ニ可加修理支

附神社無怠惓掃除可申付事

右之通寛文五年被仰出候処近年ヲ於諸國古来之社例ヲ乱シ御條目之御趣意
不相辨輩有之吉田家之許容ヲ不受社例抔ト稱シ呼名裝束等着其上神職ニ無
之村持之社式村長官座諸座抔称シ神事祭禮営候茂有之由ニ候向後御條
目之趣屹度相守忘脚不致様可相心得候

寅十月

寛保二戌年四月

諸國寺社修復為助力勧化御免之上寺社奉行連印之勧化状持参御料私領
寺社領在町巡行イタシ候寺社之輩ハ只今迄村方ヨリ勧化停止之旨地頭ヨリ
申渡有之候間勧化難成由断申所々モ候段相聞候私之勧化相留候共有領主ニ次
第ニ候従 公儀御免之上諸國巡行之事ニ候条寺社奉行連印之勧化状
持参之候寺社之輩ハ有志次第可致勧化旨御領有御代官私領者領主地頭ヨ
リ兼テ可申聞置候

右之通可被相觸候

京六孫王社之戔従公儀御修復被仰付御修復ヲモ為被下事候右社之儀元
禄年中御建立被仰出新規同然之社故檀家之助力曽ニ無之ニ付相續
候様ニ有之度此度清和源氏之方石以上之輩ニ通巡院南谷勧化相願候筈
ニ候条助力有之候様ニ可被致候万石以下モ可相廻候間志次第可有之候
右之通寄々可被達候以上

子五月

文化二丑年十二月十九日

町奉行小田切土佐守方ニ而申渡

本芝二丁目弥助店伊兵衛離縁之妻
ニ而 芝濱松町四丁目半蔵方
喜八方罷在候同人娘
なか

右 伊兵衛

其方共之内なか戔伊兵衛女房ニ而罷在候節去子八月鎌倉松岡東慶寺
ニ駈付離縁寺法相願候ニ付離縁状差出候処東慶寺ヨリ叔父喜八ニ引渡ニ
成是迄ノ戔後悔致シ再縁致度旨相侘シ候由ニテ熟談之上如元女房致度
旨伊兵衛訴出候間遂吟味候処なか戔東慶寺ニ罷在候内勿手之子供
苦労ニ相成取昇當閏八月東慶寺ヲ欠落致シ尋之者ニ被引戻同寺ニテ剃
髪申付為慎置同十一月寺法之通戔夫伊兵衛ニ可引渡旨申聞候処難
引取立由同人申之喜八ニ引渡之儀なか相願候ニ付寺法相背候上者
先夫方ニ再縁致候儀者不苦他縁之儀者先夫得心之上者格別左モ無
之候而者難成段申渡有之候由申之ニ付東慶寺ヲモ相糺候処差
障モ無之間先夫伊兵衛方ニ再縁之儀勝手次第可致

右 喜八

右 町役人共

右之通申渡間其旨可存

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

文化二廿一年二月

町奉行根岸肥前守ヨリ寺社奉行大久保安藝守江掛合

御府内町人共之内土御門家ヨリ陰陽道職札受候儀ニ付先達而
及御掛合候處委細御糺之上藪兵庫差出候書面弐通被遣右
申立候趣ニ而者以来町人共職人免許願出候節其取々之町役
人奥印為致度趣ニ有之候得共土御門家ニ不限右躰之儀ニ
付町役人共以来職札免許願出候節者別紙白川家執役共
心得之通其節ニ願人之町役人江故障無之哉之段藪兵庫ヨリ
懸合之上取計可申旨被仰渡御座候様致度則先達而掛御
月ニ候白川家執役共差出候書面江見出シ付尚又相添及御懸
合候

御書面御府内町人共之内土御門家ヨリ陰陽道職札受候儀ニ付尚
又御掛合之趣ニ而者町人共職札免許願出候節町役人共奥印イ
タシ候義者類例モ無之差支候ニ付藪兵庫江再應相尋候處別
紙之通認置書付差出聞濟之義相願候間兼届申候依之右書付
写御達申候旦白川家執役ヨリ差出候書面者写之義ニ付留置
申候

五月

大久保安藝守

藪兵庫ヨリ差出候書付

乍恐以書付申上候

一陰陽道諸石考職業仕度者共当役所江職札相願候刻当家
配下之内ニテ師匠相立身分之義者勿論受人有之連印ヲ以

職札相願候ニ付職札業勤方之義夫々相糺任願職札相渡候義
先例御座候之處御用内之義者就中数多配下之義混雑勝ニも御
坐候間一流為取締以来支配入願出候者有之節者其所之町役人
故障無之掛合故障無之旨申越候ハヽ職札相渡候様可仕候尤
ハヽ一流取締ニも相成可申ト奉存候間御聞濟被成下候様仕度
此段申上置候以上

寺社
御奉行所

寛政二戌年五月　羽黒修験觸頭　観喜院
差出候書付

東京都

羽黒修験ニ相成度由申者有之候得者師匠之方ニ受合ノ取置
師匠ヨリ私ニ相届ケ吟味之上證文取私方ノ宗旨ニ相記捺書讀
聞候上免状相渡遣追而其段上野ニ相届申候修験共義役銭
ト申院號之次第ニ寄五百文ヨリ三百文迄年々正月廿日持来私取
務ニ相成其節尚又捺書讀聞差添相渡候事
形相濟候趣認修験之名前ヲ記シ羽黒役ト認私役印致シ差
出年々右之通仕候修験共義修行怠ル歟欠落等致候得者師
匠ヨリ其段申出入京帳消ノ候様相願其度々上野ニ相伺消
帳致遣候修験道惣消帳致候節者免状相返候儀ニ有之候
得共免状ヲ持欠落致候者ハ其ノ通致置候義ニ御座候
倍ヨリ修験ニ相成候義ニテ致出家候者ハ相成不申修験ヨリ
還俗又ハ出家ヲ致候義并本山派当山派等ニ派ヲ替候義モ相
成不申羽黒派之宗法ニ御坐候得共老衰又者若年ニ而モ病

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

身等ニ而修驗之勤成兼候者ハ登心致度道心者ニ相成度旨申
立候得者上野ニ伺候上免状取上消帳致遣申候右ハ道心
者ニ限候義ニ御坐候

一 免状之儀者欠落致候者モ致所持候品ニ付右免状ヲ以同派
之修驗候身分之請令等相頼又者同居杯致度旨申候而
モ免状計ニテハ取用不申候ニ付正月私ヨリ相渡候書付致
所持候得者右ヲ月当ニ致世話遣候義ニ御坐候
当山儀者麻布市兵衛町次兵衛店ニ罷在候私配下羽黒修驗
神乃院弟子ニテ同人相頼候ニ付ヤ天明八申年十月入京候
ニ記免状相渡上野ニ相届申候其後寛政元酉年四月
二日神乃院ヨリ身持不埒ニ付消帳之義申立候ニ付是又
上野ニ相届消帳致候者ニ御座候右御尋ニ付申上候以上

東叡山支配

羽黒修驗觸頭
赤坂御門外
観善院
亮山印

御町奉行

初鹿野河内守様

御役人中

寛政二戌年六月當山派鳳閣寺役住永昌寺差出候書付

三宝院御門主御末流當山修驗宗門掟之内

御尋ニ付書付ヲ以申上候

一 弟子取候節者親元ヨリ證文取之師匠組合加判之願書并弟
子證文披見之上一派ニ而交衆申付候
禄ニ相載交衆申付候事

東京府

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

一当山宗門ニ交衆仕候者他宗ニ横入決テ難相成法式ニテ毎年
一派ニ古法ヲ讀聞受印取之一宗之掟法不相乱様急度申渡
勿論当山派之修驗僧侶ハ人別ニ役寺之印札年々引換相渡
他派不入組様古来ヨリ申渡候行人願人身元不慥者ハ決テ
当山宗門ニ加入不為仕義諸國其所觸頭共ニ年々廻状ヲ以申
遣候其末々配下ニも毛申聞置候儀古来ヨリ之宗法ニテ御座候
右之通御座候

三室院御門主
御役所鳳周寺役僧
永昌寺

六月

戌六月朔日右書付持参之節尚又永昌寺ニ相尋候趣答書
配下ニ成候者ハ其所觸頭兼置人別改之節相届候付改札渡遣
候右人別帳之義者五六月限可申出旨相觸候得共其年中
申出候儀ニテ春ヨリ暮迄之分紀失又者新弟子等之増減ヲ記差出
新規願之者ニ者改札渡遣候古キ者ハ古キ改札差出候付引替相渡候改札之儀御當地之者ハ
直ニ呼寄相渡在方者ハ飛脚ヲ以右人前帳差出候付其元ニ渡遣い
毎年十月一紙ニ式法申聞候右ハ御府内之者共鳳閣寺ニ呼寄申
渡在之ハ以廻状申渡候右法式之内毛他宗ニ横宗難成旨認有之候
若病身等ニテ修驗道成兼候者ハ隠ス道致度旨申候得者改札取上
親類受等ニ渡遣候儀ニ御坐候
不行跡ニテ破入致度旨申立候得者吟味之上平人ニ致引渡遣候
俗ヨリ修驗ニ成候儀ニテ其餘ハ一向相成不申候
寛政二戌年八月
一向宗改派帰参之義是迄取計方區々ニテ紛敷候間評義之上取極候
趣左之通
東派之寺院西派ニ改派之氣差有之候間届出候ハヽ差留有之候様

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

代官領之地頭等ニ東本願寺ヨリ斷有之又者西派之寺院ニ改派之氣差有之候間屆出候ハヽ差留候樣致度旨西本願寺ヨリ斷有之候

是ヲ改派押屆ト唱申候

一 西派之寺院東派ニ改派致候間東本願寺ヨリ屆有之又者東派之寺院西派ニ改派致候旨西本願寺ヨリ屆有之候

右兩樣押屆之方先ニ出候ハヽ取上置改派屆其跡ニテ出候共改派之由者不取上或者改派之屆先ニ出其跡而押屆出候ハヽ押屆之方不取上何レニモ先ニ出候方者不取上積

但本山同士之屆ニ限リ本文之通取計末寺之改派並押屆ハ本山之差圖ニ可任旨申聞敷候

一 改派歸參之寺院是迄其身計改派歸參致寺並門徒ハ元派殘候モ有之又者寺並門徒共改派歸參致候モ有之區々候得共以來右者奉行所ニ而不及沙汰本山之差圖ニ可任旨申渡候積

一 門徒計是迄之檀那寺不歸依ニ付他ニ改派致度旨申出候共離檀ニ紛敷門難相成旨申渡候積

但本文之義是迄區々ニ付改派致居候門徒共モ可有之哉ニ而其門徒モ改派ニ相戻度旨此節申出候共取上申間敷候

一 專修寺佛光寺之屆モ右ニ准シ同樣取計可申候

右之通ニ付御料私領共一統ニ極置奉行所ニ而出候節者勿論諸向ヨリ問合候共書面之趣ヲ以及挨拶候積尤中方ニ申立取極申候事

寛政二戌年八月

寛政三亥年五月尤中ヨリ寺社奉行ニ渡之

一 國々諸宗之僧侶堂塔或者佛像佛經等為建立ト号之江戸表市中地面又ハ店ヲ借シ年限モナク致住居候類有之趣相聞候ニ付今遠國者勿論都而建立等之為メ於江戸表店借等致度僧侶者領主又ハ本寺之添書ヲ以觸頭ニ申出於觸頭得ト糺之上奉行所ニ相達濟

東京都立中央図書館 東京誌料

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

之上六各前猥ニ市中住居候義ハ致間敷候勿論當時地面或者致店借候分ハ早々縮頭迈可申出候

右之通諸寺院ゟ可被相觸候

五月

天保元寅年十一月

御府内町道場之義ニ付取計方寺社奉行伺

町道場之儀近来追々相減候趣ニ候得共猶此上不相増様取計縁日ニ休賬ニ植木屋等多出候モ有之由ニ候間右之類者不致通過様世話有之可然旨去ル酉年松平伯耆守寺社奉行之節御書取ヲ以被仰聞取調中同人御役替ニ付追々引送之上当時松平伊豆守樣ニテ取調罷在候内当十月七日右者此節迄無油断世話致候哉之旨猶又御書取ヲ以被仰聞其節何レトモ主法凡ニモ取調可申旨無急度御沙汰モ御座候處右ニ付而者寛政四子年芝和泉守殿御勤役中別帋之通備前守殿寺社奉行御勤役之節御書取御渡有之右ニ付役共種々評議ヲモ仕候得共町道場之義先年御制禁被仰出候以来イツトナク相馳ニ今般御沙汰之通縁日之砌植木屋等郡集致候而已ナラス平日共参詣人不少古跡地同様ニ相見候分モ有之容易之義モ難相成候ニ付色々ト談判仕候得共取定相決候義モ無之候内増長致候ニ付追々内探リヲモ仕候處ソノ度々増減ハ有之候得共何レニモ寛政四子年以来ニ見合候得者凡積倍増モ至リ難捨置躰ニテ御渡有之候御書取之趣ニ者中々以至リ不申恐入候義ニ御座候間今般夏評議仕候處一躰別帋寛文元禄度御觸之趣ニ而者表店ヲ借諸寺諸社之開帳ヲ靈宝抔ト名付勧進仕其外佛檀ヲ構候儀等者勿論目立候表札差出候義モ難相成候處年數相立候内沿倫致候ニ付通徃法虚文ニ成行候間御觸之趣ニ忘脚致候ニ付日々之利用ヲ求メ参

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

詣ヲ誘引候類畢竟敷出来候段無余儀時勢ニ候得共何レモ其侭被差置候而者終ニ者御政事之馳ニ相成尤不可然畢竟石者西河岸之地藏藥研堀之不動本銀町観音等之利徳ヲ里次追々取立候義ニ付其根本ヲ菱除不仕候而者又々枝葉ヲ生シ何レモ勤立候譯ニ者至リ申間敷依之短的ニ嚴敷相成候而者人氣モ拘不穏候間当時之勢ニ寄改革之取計勘辨ヲモ仕候得共差当相当之取置無之其上前書之通嚴法有之候而モ年暦ヲ経候ニ随ヒ追々乱雑ニ相流候弊風ヲ基礎ト仕緩宥之主法組立候ハヽ譬一旦者御取締付候様ニテモ右ニ見合候而者一段之弛ニ有之候故ヨリ末数年ヲ経候内又頽敗致候ハヽ終ニ者古来之御法度長々亡失仕候様相成改正ニ寄却而弊ヲ生シ可申哉ト欲敷奉存候ニ付御納之趣無動若置下々方之者共モ難儀不仕様之主法取立度種々勘辨仕候得共相当之義モ無之右候迚延置候而ハ益

超過可仕候ニ付別帋之通来春早々町納有之候当産之處相防追々町ヨリ差出候様面ニ趣ヲ以猶勘辨之上主法ヲ立相伺右取調中ニ而モ類焼致候ハヽ辭而再建不相成候而ハ験候陽師等之類町方人別ニ加リ罷在候分ニ候ハヽ裏店ニ当引移其余借地借宅之寺社ハ早々國許ニ当引拂候歟或者無拠分者奉仕之神佛等其本寺本社抔ニ為引取候様可仕候哉左候ハヽ差当御取締モ宣穏之取計ニテ人氣モ不拘自然町道場相減可申哉ニ奉存候右者町奉行ニモ相談仕候要存寄無之旨申聞候間御書付写町觸案相添此段相伺申候

寅十一月

伺之通濟

御府内町道場之義ニ付寺社奉行ヨリ取調申上候書面類被成御下候間熟覧仕候處右町觸之趣者定例之手續ヲ以私ト毛

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

ヨリ町々江觸渡候義ニ候得者差支無御座候依之御下ケ書面類
返上仕候

寅　十一月

町　觸　案

町奉行

御府内借地借宅之寺社修験陰陽師迫ヶ及沙汰候節モ有之候ニ
付往居仕来候年暮当人名前付京旨且奉仕ヶ勧請之神佛荘
厳之様子無相違様取調去寅年十二月迫之分町々名主共ヨリ
義濃筆墨堅帳ニ認松平伊豆守方江可差出候左迫而寺社奉
行所ヨリ改之役人相廻シ候間取繕之義申立候ハヽ可為曲事候
但迫ヶ及沙汰候迫都而寺院社人神職修験等ニ至迄奉
行所之聞済無之借地借宅為致其外新規者勿論容易ニ道場
最寄往還江商人等差出候様之類決而不相成候間其旨急度
相守且類焼等致候ハヽ早々可訴出候

卯正月

寛文二寅年九月

一　出家山伏行人類ニ町屋ニ宿借シ候本寺ヨリ弟子ニ無紛段証
文ヲ取其上受人ヲ立裏店ニ差置可申候無本寺方ニハ一切宿
借申間敷事

一　右之輩町屋裏店ニ差置申間敷候裏店宿借候共寺構ニ為ヲ
仕申間敷候其上右之寺ニ一夜之宿借シヲモ置申間敷事

一　題目講念佛講表店ニテ一切執行仕間敷事

九　月

元禄七戌年十月

一　前々モ相觸候通町中表店ニテ念佛講題目講ト名付鐘大鼓ヲ
タヽキ念佛題目ヲ唱大勢人集致候義停止之旨自今以後モ
弥可為停止事

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

一町中ニテ表店ヲ借諸寺諸社之開帳并霊寶抔ト名付勧進仕候義
堅可為停止若不叶義有之候ハヽ寺社奉行衆江相断寺社奉行衆
赦シ被申候ハヽ其段家主能々吟味致シ無紛事ニ候ハヽ勧進致本人
ニ名連両番所江訴差図次第可仕事
右之趣堅可相守若違背候者於有之者本人者不及申家守ニテ
急度曲事ニ可申付者也
寛政四子年四月 松平和泉守寺社奉行江相渡候書取
町道場之義只今迄之姿ニ而者何レも徒法虚文ニ而不相済事
ニ候依之ニ三ヶ追々觸置候處不行届事ニ候何月迄ニ又者当年中トカ引拂
可申候右期月後ニ而も候ハヽ改方之者相廻可ク候又期月後畢
道場差置候者ハ右地面可取揚候之趣相觸候而者如何可有之
哉右之通ニ候共改方又者等閑ニ而者幾度觸出候而も無益
之事ニ可相成候得共改様之手續等ヲも了簡致可被申聞候
且町方江掛り合候事ニ候町奉行江も内談有之可然存申候
天明八申年七月町觸
他國ヨリ御当地江借地借宅致勧化所其外江用ニテ罷出居候寺
院社家修験共寺社之神佛旅宿ニ而も朝夕之勤行可致事ニ候得共
心得違佛壇神具等荘厳目立候様取飾或者手水鉢挑灯求表
江差出置候も有之候ニ付不目立様可致段兼而寺社奉行ヨリ申付
有之候得共年久敷罷在候者ハ兼傳参詣致候者も多古跡地
同様ニ相見紛敷信仰之輩多相成候ニ付而者寄附之品も相増
外々ニ而者古跡之寺社同様ニ相心得如何之義ニ候依之他國ヨリ罷
出居候両院出家修験共奉仕之社檀佛檀等自分々々ニ勤行之
為メニ付神佛荘厳表江目立不申候様可致旨明和四亥年
寺社奉行ヨリ觸頭江申渡有之其節町觸も差出置候事ニ
候得共其後年月も過候ニ付近来自然ト心得違之者も有之

借地借宅之寺社修験等多相成古跡地ニ紛敷可相成哉ニ付コノ度寺社奉行ヨリ猶又觸頭呼出心得違無之様急度申付有之候得共神主社家共者觸頭無之旅宿ニ罷在候者モ多難行届候間右躰之差置候地主家主共ニ而役人共支配相觸置候趣ヲ猶更相心得常々改若不相用輩有之候ハヽ月番之番所ニ而訴出差置受寺社奉行ニ可訴出候此旨申中可觸知者也

申七月

寛政三亥年五月町觸

諸宗之僧侶堂塔或者佛像佛經等建立之為メ江戸市中ニテ借地借宅之義申談候ハヽ觸頭ニテ差免候哉否差免候無之候ハヽ勿論之義差免有之候旨申候共寺社奉行ニ而真殿申立聞濟ヲ受貸渡候様可致候

右之通町中可被相觸候

五月

寛政三亥年五月

松平伊豆守ヨリ寺社奉行ニ相渡

寺社奉行ニ

國々諸宗之僧侶堂塔或ハ佛像仏經等為建立ト号レ江戸表市中ニ地面又者店ヲ借受住居致候類有之趣相聞候自今遠國者勿論都而建立之為江戸表ニ於テ店借ヲイタシ度僧侶之録所又者本寺之添書ヲ以觸頭ニ申出觸頭ニ於テ得ト糺之上奉行所ニ相届聞濟之上者格別ニ市中住居候義者致間敷候勿論当時地面或者店借居候分者夫々觸頭迄可申出候

右之通諸寺院ニ可被相觸候

五月

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

天保十三寅年三月

寺社境内寄場取締方之義ニ付寺社奉行申立候書付

去月十二日当心得一覧致可置旨被仰聞御渡被成候遠山左門尉
相伺候御府内市中寄場取締方之書面一覧仕候処寄
場ト唱見物人ヲ集メ座料ヲ取渡世致候者共之義ニ付取調相
伺候趣候処寄場之義者御府内市中ニ拾ケ所餘又者拾五
ケ所ト力筒所ヲ定神道講釋或ハ心學軍書講釋昔咄し
之類ハ差免右場所ニ女子共不差出鳴物堅ク禁止右四業之
外者難相成旨申渡左場所之義者取調可相伺旨御書取ヲ
以左之門尉ニ被仰渡候ニ付寄場之ケ所同人取調候処当時市中
ニ二百拾一ケ所有之勘辨之上ケ所減方致候ニ者年暦ヲ以仕分ケ
候外無之候間定享年間ヨリ享和迄之分拾ケ所有之候
ニ付右之分差免其余者不残為相止可申哉ニ候得共場所廣之
之御府内右ケ所而已ニ而者餘リ無數ニ可有之御書取ヲ以拾ケ所
數又ハ拾四五ケ所可相定旨被仰渡候ニ付文化度相始候右キ分
五ケ所相撰都合拾五ケ所差免前書四業之者ニ限リ寄場渡
世致其餘之藝道致候者相雇候義者勿論右場所ニ茶汲女其
外女高人都テ婦人ヲ差出旦噺之内鳴物ヲ取交候義堅ク不
相成前書拾五ケ所之外者右渡世差止候積申上候処伺之通リ
御差免相濟候趣ニ有之以前市中寄場ニ於テ女浄瑠
理等相催座料ヲ取渡世致候者之義是迄度々町觸等
有之候処追々取締方弛候ニ付伺之上觸背之廉ヲ以嚴重ノ及
取計候間寺社境内ニ同様之渡世致候者有之哉ニ付一事両様
ニ不相成様致度段去ル十二月中左ノ門尉ニ方ヨリ掛合有之
寺社境内ニ右様之類前々ヨリ有之候得共市中ト違是迄雑
ニ成旨之申渡等致候義無之候間觸背之訳ヲ以吟味取計候様ニ

東京府

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

相成兼間光女淨瑠理之義及沙汰候迫難成段觸頸等ニ申達置候義ニ有之然ル處前書之通市中寄場之ヶ所嚴重之取締方申渡有之寺社地之分迚モ同様ニ候間境内寄場之ヶ所取調勘辨仕候處諸寺社之内寄場渡世致候者当時三十二ヶ所有之尤何レモ延享ヨリ宝暦度重モ之願濟ニ而繪之ヶ所殊ニ近来猥ニ相増候譯ニ者無之元来寺社助成筋ニ自ラ市中ト有差別モ有之候ニ付今度市中寄場之義格別減方ニ相成候上者右ニ准シ可取計者勿論ニ候處右之通先前願濟之義故斯方仕法ニ見合減方モ難相成殊ニ寺社一統助成筋ニモ相拘如何可有之哉依之再應勘辨仕候處前書貳拾弐ヶ所之内願濟ニ候共此侭差免候而者市中ニ氣受モ拘リ自然ト次候姿ニテ折角取締甘候期節故旁寺社境内之分モ何レト歟取計可申勿論減方致シ候ニ者市中同様ニ張年暦ヲ追撰分候外取計方無之候得共一右躰減候共自餘之ヶ所ニ見合候而者無數ト者難申平生群集之場所古寄場之外モ品々助成筋モ有之哉ニテ寄場而已減方致候而モ強モ助成ニ差支候程之義者有之間敷其餘之寺社寄場之内当時中絶之分モ有之候間惣躰之ヶ所凡半減ト見積以来浅草寺境内ニ三ヶ所外寺社境内ニ六ヶ所都合九ヶ所ト相定其余拾ヶ所者寄場渡世為相止右差免候寄場ニ於テ前書神道講釈或者心學軍書講釈昔咄右四業之者ニ限リ渡世致女淨瑠璃又者淨瑠理太夫人形ヲ取交其余八人藝手品鳴物繪等餘業之者引替相雇候義者勿論右場所ニ茶汲女其外女商人都而婦人ヲ差出且咄之中ニ鳴物等取交候義決テ不相成段諸寺社ニ相連候様可仕候哉此段相伺申候

寅三月

伺之通濟

天保十三寅年五月

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

寺社境内香具見世之義ニ付寺社奉行調書
今般寺社境内寄場取締方等別帋之通取調申上候ニ付而者兼テ入御聴
置候通湯島天神市ヶ谷八幡芝神明境内ニ於テ香具見世ト唱前々
ヨリ子供仕形物真似等興行致候義有之尤神明境内之分者去ル
戌年及大破畳置候趣ニ候得共右ハ何レモ奉行所聞済ニテ神明之外ト
弐ヶ所者当時モ連綿イタシ元来寺社境内芝居之儀ニ階桟敷ホ
ヲ構衣服モ是ニ准シ諸事結構ニ相成候迚正徳四年一旦停止被仰出
其後延享四卯年二月九月両度明地ニ床見世其外見世物売物小
囲店有之火除之場所ニ候間不残取払候様申付候只今迄右明地居
候者渡世難儀致候ニ付前々之通寺社境内之中場所相対次第ニ
借り候而引移候様可申付旨町奉行ゟ御達有之候旨西尾隠
岐守殿御書付ヲ以被仰聞同月十四日右後境内ニテ売薬講釈
子供躍り物真似揚弓等之義只今迄明地ニテ致来候通之分ハ

其通為致可申旨是又御同人御口上ヲ以被仰聞候趣之書留有之全其
項ヨリ奉行所聞届之上当時迄引続興行致候義ト相聞事実ニ於テ
渡世ニ離レ候者難義之稟ヨリ神社等修復助成両様之為メニモ可
有之候得共元来葭簀囲日除同様ニ而売薬弘メ之為メ縁又者子供仕
形物真似興行為致度趣之願済ニ有之候處右者名目迄ニ而イツトナク歌
舞妓紛敷相成小屋掛等之義モ眼前哥舞妓芝居之躰ヲ取縮迄
ニニノ葭簀張等之訳ニ者無之二階桟敷ハ勿論最寄茶屋〻ヨリ辨
当或者酒食等持運ヒ候分ニテ自然境内不取締之筋ニ相聞自ラ
土地之風俗ニモ拘り可然渡世ト者難申追々被仰出候御趣意ニモ有之
此侭差置候モ如何ニ候且者延享度之願済ト者引違横行之取計
及候上者旁正徳度之被仰出候趣ニ見合前書有来候弐ヶ所共不残為
引払其余願済ニテ興行中絶之分者以来再興不相成旨申渡候方当
時之御趣意ニモ貫一躰之取締ニモ可相成尤是迄聞候又ハ神社等

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

修復助成之為賣薬弘ト名付蔑蕢派張之沓見世差出曲馬或者
子供手踊抔日数幾日定願出候義有之右者其時々差障之有無
糺之上承届候仕来ニ付是等之類者歌舞妓ニ紛敷譯ニモ無之候間向
後聞帳等有之候寺社境内於テ日限ヲ定相願候分者糺之上是迄之通
取計候様可仕候哉前書之通境内取締向改革ヲモ致候義ニ付
此段相伺申候

本文之外寺社境内土弓場之義何レモ奉行所聞済ニテ子細者無之候得共
兎角形容専ラ二取飾候婦人ヲ差出戯之楊弓者名目迄ニテ
衆人右女子共ヲ目当ニ僧俗之無差別罷越遊楽致境内不取締
之趣相聞畢竟婦人者矢拾ヒ之趣意男子ニ而已聊差支無之筈ニ
付是又一躰之御趣意基ニ兼テ入御聴置候通以来土弓場ヘ婦人
ヲ差出候義者堅差止候積ニ有之右者改革ト申程之事ニモ無之候
間本文之次弟伺之通御差図有之候ハヽ今限ニ而取計候様可仕候

以上

寅三月

同之通濟

弘化三年午五月東本願寺輪番ヨリ差出ス

本願寺由緒略記

浅草

一慶長六年辛丑八月十六日
東照宮様教如御門跡億空ヘ被為成白銀三百枚布三百端賜リ其
節嫡家之本願寺御取建可被成下旨被仰出屋敷地ノ義モ可被
下置段上意被為在候
一翌十七日右為禮教如御門跡登城伏見有之候處御對顔ノ上一箇ノ寺領ヲモ
御附可被下置旨上意ノ處教如御跡被仰上候者御恩ノ甬忝奉敬承
候得共若莫太ノ寺領等拝受仕一生安逸ノ身ト罷成候而者度ニ門末

ヘノ教導自然ト怠リ可申左候時ハ宗祖ニ対シ不本意ノ至ニ候得共寺
領ノ義ハ御断申上候何卒諸國ノ末寺門徒ヲ普ク及教導帰依信施
ヲ以本廟相續仕度旨被申上候處寺門ノ本意左モ可有之事ト
御感不斜御懇之上意ヲ被為象候処ニ本多佐渡守殿ヨリ本願寺
取建候ニ付諸國ニ有之末寺門寺住家中ノ者共迄悉領家ノ旧恩ヲ慕
ヒ教如ニ帰依ノ輩者勝手可象帰参此義ニ付領主地頭ニ於テ共差構
有之間敷任持門徒ノ心ニ任スヘシト厳重ニ被仰出候カシル無二ノ御親
三一方不成旨命ニヨリ追々諸國ノ門末遂帰参如今本廟相續
有之候義皆以神君ノ御賜ト教如御門跡以来御孚恩ノ程偏ニ被
奉存候然者帰参ト申名目始リ候末由ハ嫡流本願寺御取建ニ
付諸國ノ門末悉領家ノ旧恩ヲ慕ヒ勝手ニ教如ニ可遂帰参旨
被仰出候事全寺領ニ被為引替候上意ニテ当本寺ニ限リ規模ノ
名目ニ而御座候如斯教如御門跡ヘ御親ニ孚格別ノ以尊慮当山御取
建被成ト御賜ノ寺領ニ引替諸國ノ門末ヲ被及教導本山相續在
之儀東照宮様御許容被為在之候ニ付代々ノ御門跡於モ右伏見御城ニテ
教如御門跡ヨリ言上ノ旨趣ヲ堅被相守諸國門末教導ノ義ヲ
専ニ被致候事
一嫡流本願寺御取建ニ付開山ノ顕像安置無之候而者難相成旨教知
御門跡ヨリ被申上候趣上洲厩橋妙安寺ニ傳来ノ開山自作ノ影像被為
召上本多藤左衛門殿為御使寄附被為在候則其節妙安寺被
下置候御奉書如左

本願寺御取建ニ付貴寺安置有之候親鸞聖人自作ノ影
門跡御ニ望ノ處可被指進由内府殿御喜悦被思召候弥早速
可被進ノ旨今般以御使被仰遣候依之御紋幕被遣自今
御教被下之候勝手可被相用候仍執達如件

慶長七年三月九日

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3

ガラス使用

本多佐渡守
正信在判
上野國厩橋
妙安寺御坊

右之通被仰出猶又同寺へ
御紋附袈裟衣其外拝領之品数多有之　御目見之上
御懇之上意被為在之候
一御寄附開山ノ影像上洛ニ付兼テ上意被為在之候屋敷地之儀東六條七條之間方四町分境加藤喜左衛門殿奉行トシテ御打渡有之影堂弥陀堂御起立且檜皮葺鐘楼同唐門二ケ所其外書院向ニ至迄悉ク御寄附被成下候
一當山御取建以来諸國之門末披帯襟追ミ象帰参候ニ付右帰参之族ヲ相妨可申ト慶長八年之頃法義筋ノ義ヲ申立当山へ帰参不致様相拒ミ可申ト種々謗難ノ義ヲ申掛誑惑有之趣達
上聴法義筋ノ義者至テ大切之義ニシテ邪路ニ陥リ候時ハ
御政事ニモ相拘リ候事旁
神君御在判ノ御書被成下候如左

東本願寺寺法之義ニ付於諸國否之義有之候ハヽ早速可被申出候仍テ
如此書付相渡置者也

慶長八年十二月　将軍家康御在判

本願寺
御寺務江

如斯被　仰出候ニ付嫉妬誹謗之族令恐怖速ニ其沙汰相止候事
一台徳院様御代元和二年冬開山親鸞聖人之真影（本願寺第十二世 心信上人之作）鎌倉常葉ト申所ニ有之趣達

上聽右眞影
公儀江被爲　召上翌巳年四月宣如御門跡江拜領被仰付則當山寶
庫ニ安置有之候右之通
台徳院様御治世ニモ
東照宮様御在世ニ不被爲替御懇不淺或時宣如御門跡參府之節
於　御城織田常眞殿朽木卜齋殿相伴ニテ御茶被下之御親
キ御取扱被爲在之候事
一寛永十五年西方於テ當方之繁榮ヲ妬且惣領家之旧恩ヲ慕ヒ
當山江歸參之輩ヲ誑惑セラレン爲ニヤ表裏問答トイヘル三巻ノ
書ヲ述造令開板普ク諸國江被弘候ニ付江戸表ニ於テ御老中ト
松平伊豆守殿御覽有之候處教如御門跡ヲ敵ニ悪様ニ申成
神君御寄附被爲在候開山眞影ヲ出ヘく棄朽木同様ト令惡
口剃信淨院ニテ本願寺ト可名乗謂無之抔ト御取建之神慮ヲモ

不奉恐法外至極ノ義ヲ相認候書ニテ伊豆守殿大ニ御腹立有之
神祖御取建之本願寺教如御門跡ヲ如此悪敷被申候事者
公義ヲ被致蔑如候モ同前不埒之至ニ候且又東御門跡於テモ西方
ヨリ箇様之書籍開板有之候ヲ其侭ニ被捨置候而者對
神慮難相濟儀尤僧家之事故穏順之心ニ而モ可有之歟ニ候得共何分
親ニ見聞之上者此侭ニ者難差置勿論御門跡ニ於テモ私ナラサル御事ニ候得
者御取建之由緒ヲ以急度被仰立可然トノ御沙汰ニ付宣如御門跡被爲恐
入實者右書籍彼方末寺門徒江者被弘候得共當方末寺門徒江者決テ
不被相渡候故一向存知不申處右依御沙汰始テ承知被致打驚早速
開山以來之系圖并神君當山御取建之御由緒等被申立候處元
ヨリ斷可有義ト御聞受有之御評議之上右西方ニテ令開板候表裏
問答絶板被仰付向後堅ク流布致間敷旨西方江被仰渡候事
一浚明院様御代明和六年之頃他宗之諸寺院ニテ當方開山并世代之

影像筆蹟類聞帳為拝等所々ニ有之候ニ付往昔開山之影像御寄附ノ譯
ヲ以世代筆蹟類ニ至迄他宗之寺院ニテ聞帳等有之候節者前々ヨリ
公儀ニ御建被申御差留ニ相成候趣被申立候處羽和八年辛卯九月廿九日牧野
越前守殿御宅御内寄合ニ輪番御呼出有之土屋能登守殿松平伊賀守殿
御列席ニテ我中守殿御渡有之候御書付左之通

東本願寺ニテ有之親鸞之像者　従
公儀御寄附之訳モ有之候ニ付木像画像名号其外什物等他宗
ニテ聞帳致候而者外々信仰モ薄ク相成候ニ付他宗ニテ聞帳致節
者前々奉行所ニ申達差止有之候旨門跡ヨリ被申立候ニ付伺之上以来
他宗之寺院ニ傳来ノ木像画像名号其外什物共聞帳ニ為持
候義親鸞ニ世代之内其寺ト住職又ハ為修學住山之由緒ノ
ニ付之寺院者格別其外右之由緒無之寺院ニテハ一切聞帳又ハ為拝候
義無用可致旨纔頃ニ申渡候間其旨ヲ以門跡ニモ其段可申達候

九月

右之通被仰出不苗モ当山開山之像者従
公儀御寄附之旨普ク諸宗他山迄モ相聞御來達之御由緒頭ニ有之然相顯シ實
ニ一山之面目不可過之候右御渡御書付之趣諸宗觸頭ニ有翌日惣門呼出ニ
テ御渡有之且諸國御奉行所有之向ヘモ不残御渡置ニ相成候段御掛牧野
家ニテ御沙汰有之候事

一文恭院様御代天明八年戊申正月京都大火之節当山悉類焼及候仍之
再建被相企候ニ付往古駿州富士山之樹木拝領ノ旧例ヲ以飛州山内御林
之樹木拝領ノ義被願上候處寛政二年庚戌六月十八日寺社御奉行
松平紀伊守殿御宅御内寄合御列座ニテ使僧并輪番被召出願之通
御許容被成下候旨松平右京亮殿被仰渡候ニ付重而願上候趣及言上候
飛州白川郷御林之木拝領被在之度旨再應被願上候通飛州御林内
處御由緒旧例ヲモ思召格別之御沙汰ヲ以被相頒候通飛州御林内

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

ミヲ材木被下ミヲ可有之旨被仰出候尤御林ノ場所並材木ノ員數等相糺
追テ可相達候間伐出シ運送等者本願寺入用ヲ以可被申出候且又寺院
作事ノ義者享保年中被仰出候趣モ有之候間以前ヨリハ一二等モ被
取縮荘嚴等モ成丈手軽ニ相成候義専一ニ候左候ハヽ一宗之盛事タルヘク
候此旨奉申達候様ニトノ御沙汰ニ候

六月

右者

東照宮様当本山嫡流本願寺御取建ニヨリテ出格之御取扱被成下候趣旧記ニ
荒増ノ被書ニ御座候
弘化四未年六月寺社奉行ヨリ達来
町道場之義ニ付追々伺濟之趣モ候處本願寺等之宗門ハ檀方ヲ門徒ト唱
爭忍御事之節寺院共其家ニ罷越施主ノ佛檀ニ向ヒ面向致有縁
之者ニ宗意ヲ教導ス及候義前々ヨリ仕来候處近来町道場相混
檀家ヲ遠慮ノ由相断候向モ有之及難儀候旨来寺共ヨリ歎出候由ヲ以
門跡ヨリ夫々被申入之趣モ有之無余義筋ニ相成候間伊勢守殿ニ伺上
宗門仕来之教導ス及候義ハ寺檀ノ懇志次第ニテ不苦尤改ヲ網流ノ義
再應之申立モ候得共右有雑役及御沙汰諸奉行所ハ相達可置旨両本願寺
輪番ニ相達候尤伸光寺専修寺等右一宗ハ同様ノ義ニ候此段及内通候

六月

嘉永二酉年閏四月町奉行ヨリ寺社奉行問合
在ヲ日蓮宗一本住職ノ者ヲ本寺ヨリ退院申渡候得者隠居之名目ヲ放シ何方之
人別ニモ加ヘス其所支配ノ奉行所ニ願立等イタシ不苦義ニ候哉此段御問
合仕候

両閏四月

町奉行

扶持

御書面ノ趣令承知日蓮宗觸頭共五宗掟相尋候處一寺住職ノ者ハ

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

本寺ヨリ退院申付候得者隠居ノ名目無之雲水ト唱流浪ノ身分ニテ
奉行所等ヘ願立致候義者雖相成尤他所人別ニ加リ候上其所之作
法ヲ以願立致候節者差構無之旨申立候

酉四月　　寺社奉行

嘉永二酉年九月寺社奉行ヨリ差越

差上申一札之事

富士講ノ義者前者度々町御触之趣并文化度猶又町御觸有之候処
近来御府内外之者共講仲ヶ間ヲ相立追々信仰之者不少不届ニ付今
般富士浅間師職共并講中之内重立候者共ヲモ被召出御吟味被
為遂候処其祖ト尊信致シ候角行藤仏并右教ヲ傳来致シ候食行身
録ト申者神道仏道ニモ無之自己ノ存附ヲ以種々異様之義申唱ヘ
帰信致シ候段於公儀御立被置候神道并諸宗之外俗人ノ申教ヲ
信用致シ異様ノ義等相唱兼テ御觸渡ノ趣ニ相背不埒ニ付急度モ
可被仰付候処文化度以来年暦モ相立追々心得違ヲモ生候儀ニ付今度御宥
免被遊以後角行食行抔ト唱講仲ヶ間ヲ相立或者行衣ヲ着シ鈴ヲ持異
形ニテ登山致シ平日モ如何敷唱事又者俗人ノ身分ニテ焚上ト号加持祈
祷ニ紛敷儀致シ護符様ノ物差出候儀等一切御制禁被遊候間向後
角行食行等ノ申遺書物等持傳内々信心致候者有之候ハヽ所役
人共モ精々相改其筋ヘ可申出若等閑ニ打過候ハヽ当人ハ勿論所役人共迄モ
厳重ニ可被仰付旨被仰出候段被仰渡且師職共吉田白川両家ヨ
リ許状受候身分又者許状不受者モ社傳ニモ無之唱事等認遺初穂銭
等貰受候段不束ノ事ニ候得共祖父親以来右躰之仕来ニ相成候儀ニ付今
般御咎ノ不被及御沙汰且浅間社地之内角行ノ社并人穴村入定銅ト
唱候場所等ヘ追々取建候処石碑類ハ早々取拆以来異様ノ唱事ハ
勿論フセキト号候護符等決テ差出間敷旨、本所相傳ノ外異躰
之儀不致急度可相守諸書物板刻并講中傳来ノ書物ハ御取上ケ

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

被遊候間今般差出残候分御奉行所ゟ可差上旨被仰渡一同兼知奉畏候仍
御受証文差上申候処如件

嘉永二酉年九月四日

寺社奉行所

宛

嘉永二酉年九月寺社奉行牟多中務大輔ゟ届来ル

武州大杉村喜右衛門悴庄七儀不二道ト唱候教ヲ帰信致シ於公儀御取用者
之様致度旨申立候ニ付於諸國右教ヲ帰依致候者内重立候分計
呼出吟味及其餘右之者共ヨリ教受下通帰依致候迚ノ者共八多人数義ニ
付見切不呼出候儀等見込ノ趣承調阿部伊勢守殿ヱ相伺候処伺之通御下知
相濟候ニ付一件ノ者共ヲ者別帋ノ通証文申付候上一同熊野牛王申渡候且右
証文ノ儀者各方ヱモ為御心得可及御達旨御同人御差圖ニ付別紙一通御達
申候

九月五日

寺社奉行

別紙

申渡書

武州大杉村喜右衛門悴庄七儀不二道ト唱候教ヲ帰依
公儀御取用有之様致度旨申立候ニ付遂吟味処其祖有盡行藤佛ト唱同
人教ノ趣追々相承致シ同國鳩ヶ谷宿庄兵衛事禄行三志ヲ近来師
ト尊ミ天地日月國恩君父ノ恩ヲ忘却不致四民共其職業ヲ勵ミ諸人
ノ難儀ヲ救ヘ半事等専ラ教導致由ニ候得共右者素ヨリ人間普通之
儀ヲ盡行等之教ニ而已限ラス訳ニ無之処神儒佛モ不依種ゝ異様之

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

字体ヲ取捨天地間之事ニナソラヘ佛道ノ呪文同様帰信ノ者共一同相唱ヘ諸
人ヲ申勧ル段者全之新義之異法ニ付可取用儀者勿論右屓ニ於テハ不届者
急度モ可申付處其身ト發起イタシ候義ニ無之畫行等ヨリ之申傳ヲ錄
行三志ノ教況ニ如何共不心得帰依致候段ハ無紛相聞殊ニ庄七等頼ミ赴
御取用無之者速ニ改心致シ以来親義異様ノ義急度可相止旨申立候
ニ付宥免ヲ以不及咎之沙汰

但是迄所持致候書物類ハ取上ル

寛政五丑年九月

掟書

一入國ノ砌被仰渡ヲ掟書扣

一虚無僧ノ義ハ勇士浪人一時ノ為隠家不入守護ノ宗門ハヲ天下ノ家臣諸士ノ
席可定ノ条可得其意旨

武州青梅
鈴法寺

一虚無僧取立ノ義諸士ノ外一向坊主百姓町姓下賤ノ者不可取立旨
一虚無僧諸國行脚ノ節怪敷者見掛候時ハ早速召捕其所ニ留置國
領者其役人ヘ相渡地領代官所者其村役人ヘ相渡可申旨
一虚無僧ノ義ハ勇士為兼帯自然敵杯相尋候旅行仍テ諸國ノ者對
面無僧兼相慮外ノ品又ハ托鉢ニ障リ六敷義出来候節ハ其子
細相改本寺迄可申達旨本寺ハ早速江戸奉行所迄可告来旨
一虚無僧止宿ハ諸寺院或駅宿村ニ役所ニ旅宿可致旨
一虚無僧法開儀ニ不可取者萬端可心得事
一尋者申付候節宗門諸流可抽丹誠旨
一虚無僧敵討申渡者於有之遂吟味兼テ断本寺院従本寺可許出旨
一虚無僧常ニ本刀帳劍等心掛所持可致旨
一本寺字法出置其段無油断為相守宗法相背者有之於テハ急度宗法ニ
可行旨

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

右之条〻堅ノ相守武門ノ正道不失武者修行ノ宗門可心得者也為其日本
國中往来自由指免置度處決定如件

慶長十九年甲寅正月

本多下野 印

板倉伊賀 印

本多佐渡 印

覺

一本寺ノ住職ニハ末寺并本寺ノ弟子仲ヶ間以衆評撰器量可相定之假
令有由緒弟子以相對後住契約並遺状可立之於末寺住持職者其
寺ノ弟子共相談ノ上何本寺可居置之事

一弟子契約ノ義改其人體ニ取証文可極之為背大法追敬者不可抱置事

虚無僧諸流

寺院中

附虚無僧之作法相成相定通り従本寺弥入念急度可申付
事

一末寺并弟子中背一宗之法令仕置時小科ノ者ハ新本寺可任指置大
科ノ族ハ遠奉行所落着可申付之理不尽ノ働仕間敷事

右之条〻堅ノ可相守之若於違背者可為曲事者也

延宝五丁巳年 十二月十八日

大 攝津 印

板 石見 印

小 山城 印

虚無僧諸流

本寺
末寺中

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用

武州多摩郡青梅新町
普化禅宗諸流本寺觸頭
鈴法寺出役
利光寺看主
嘯鬼　印

寛政五癸丑年九月

寺社御奉行所

右趣以口上書奉申上候

一虚無僧宗門弟子ニ契約ノ叓不限貴賤緞如何様ノ訳御座候トモ片口ニテ難承届御坐候付先方承合不苦訳合ノ面ニハ此方ヨリ其出所ヘ申通訳引合証文ヲ取師弟ノ契約仕候上ハ家出或ハ欠落其外侍ニ不似合義仕候者ニテモ如此吟味仕候付社寺方ニテ欠落等ニハ相互不申候以上

武州青梅
鈴法寺

一寛政元辰年十二月

天保二卯年九月
普化禅宗出張番所ノ義ニ付町年寄取調申立候書付

普化禅宗下總國
小金一月寺末
武州神奈川西向寺末
下總國宝珠花
観念寺
番所

延享五辰年八町堀ヨリ神田花房町ヘ借宅番所差出候由

同末寺

元文五申年木挽町四丁目西應寺門前代地家主三右衛門店借定番所
差出候由右之外ニも普化宗番所御当地ニ古来者所ニ而差出申候旨
申當寺社御奉行御書留不相見由ニ付相違ニ無之義ニ候哉其節
御糺被仰遣候様被成度旨右者此度青梅鈴法寺末寺安樂普化
宗躰ニ紛敷者徘徊イタシ又者宗縁之内ニも心得違之筋有之由ニ而
為取締出張番所差出度段寺社御奉行衆ニ相頼候ニ付御同
所ヨリ之御掛合書写御渡被成取調可申上旨被仰渡候仍之控
方書留取調候處相見不申候間前書延享元文之度出張所有之
候場所相尋候處何レも年久敷儀ニ而書留焼失仕是又相分り兼以
寺町役人共申之候條当時普化禅宗出張番所左之通御坐候

同國船橋
清山寺
番所

牛込御納戸町
御幕同心
佐藤庄司拝領町屋敷
地借
武州青梅新町
鈴法寺出役
嘯虎

右鈴法寺番所義八年久敷市谷田町一町目佐兵衛店ニ罷在候處二十六
ケ年以前同所船河原町六太夫店ヘ引越其後文化三寅年右御納戸町ヘ
引越候由ニ御坐候尤其度ニ寺社御奉行所ニ鈴法寺ヨリ御届申上候
趣ニ而其所町役人ヨリ御訴者不仕町方人別之義ハ相係有之候由ニ
御座候

浅草東仲町

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

右番所ノ儀ハ享保年中迄浅草寺地中日音院地借ニテ番所神理有之候趣
其後浅草東仲町ニ轉宅仕候由是又一月寺ヨリ寺社御奉行所ニ而當
申上候由ニ御坐候町役人共ヨリ御訴ノ義ハ書留焼失仕相分リ兼候趣ニ付
座候

家主七兵衛借宅

下總國小金宿

一月寺

番所

李芝三町目

家主藤四郎借宅

一月寺末

武州神奈川

西向寺

右西向寺番所ノ義者拾四五年以前右藤四郎方借宅ニテ當時住居仕罷在候
由尤右店貸附候砌町役人共ヨリ御訴不申趣ニ御座候旨肝煎名主共申之
候右相紛候處趣前書ノ通御座候篤ト承調候ヘ、右之外ニモ末右様之類
可有之哉ニ候得共先以差當候處趣前書之通御座候尤寛政三亥年諸寺
僧侶借宅ノ義ニ付町觸書相添則御渡被成候御掟合書写返上仕此段
申上候以上

寛政三亥年五月

番所

樽吉八郎

炉九月

諸宗ノ僧侶堂塔或者佛像佛經等建立ノ為江戸市中ニテ借地借宅之義
申談候ヘ、觸頭ニテ差免候哉否兼差免無之段申聞候者ハ勿論ノ義ニ
差免有之候旨申聞候共寺社奉行所ニ其段申立聞濟ヲ受候後候様
可致候

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

右之通町中江可被相觸候

五月

弘化四未年五月内藤紀伊守ヨリ進達

一普化宗流葬改革ノ義ニ付寺社奉行中立候書付

濃州攻見村地内於テ虚無僧共徒黨狼籍及候一件内藤紀伊守掛ニテ吟味致シ伺書差上候義ニ有之寺院取締向伺之上追ニ相觸候趣モ候處普化宗ノ者共近年宗風怠ニ相成上州高崎宿清海寺看主晴運駈込訴致候一件去辰年和泉守殿寺社奉行中御伺被置翌巳年久世出雲守掛ニテ御仕置申付候甲州乙黒村明傳寺看主上莫外一人儀同寺出奔致候躰王ヲメ敎同寺看主一上八女犯ノ上甲府勤番支配吟味中出奔ノ身分ヲ偽百人組同心ニ相成善林新召ト名乗罷在相州伊勢原宿神宮寺看主大信者鈴法寺出役中上州太田町理光寺鎌塵ヲ呼寄新召倶ニ手荒ニ取扱難助遣シ子細有之由權勢ヲ以強テ縊死爲致一宗ヲ立候者古之通ニテ共後両寺出役ニ會下ノ者共モ今般ノ如ク更ニ僧分ノ場合ヲ失ヒ且又諸國旅行ノ節權威ヲ振ヒ御用同様本錢穀代拂等致シ或者酒肴等爲差出無謂難題申掛候義等追ニ超過致シ宿村方之者共及難義候段関東在ニ為取締廻村致候御代官手附共ヨリ申立候趣ヲ以テ取締方ノ義御勘定奉行ヨリモ掛合越一躰武家ノ悪徒寄集慶長度御條目ノ由ヲ以第士ノ隠家ト申成素姓他ニ不浅面躰ヲ隠シ罷在候故手荒氣強ノ所業ニ及候趣ニ相聞右掟ノ由モ兼テ難心得存居候次第モ有之今般本紙可差出旨一月寺鈴法寺番所ニ相達候處先年焼失ノ由申傳候旨ニテ慶長十九年ノ書付寫別冊ノ通差出取調見候處文義モ甚拙陋ニテ本多佐渡守板倉伊賀守本多上野介連名ニ候得共右年間諸宗ノ御條目數有之候處何レモ御直判ニテ寺社領書出シ其外怪キ事ハ伊賀守又ハ同人ト金地院連名モ相見此時代伊賀守ハ京都所司代佐渡守ハ江

戸上野介駿府ニ相詰居候哉ニテ右三人連署ノ品外ニ不相見候間不審ノ
廉先達テ林大学頭ヨリ及掛合候處御記録ノ内照應無之又躰疑敷
様相聞ニ難相成見込ノ通役徒ノ内ニ取拂候品ニ可有之旨申越猶勘辨
仕候處宝暦度本則ノ義申渡候書付之延宝度達ノ趣可相守旨書
記両役寺ヨリ延宝貞享保記未寺ヨリ相達候箇條書ニ慶長ノ
義書載無之既ニ享保ノ奉書ニテ延宝年中被仰出候書付ノ通可相守ト
有之然ル上ハ宝暦前後ノ頃取拂候品ハ無相違天蓋ニテ面体不顯ヨリ
武門ニ難交無頼ノ悪黨共ヲ擾ヲ致シ身元ヲ不頭掟ノ由相唱悪行ノ
増長及尤天保六未年仙石道之助元家来ニテ出奔致候神谷轉儀普
化宗ニ入友鷲ト名乗上總國ニ黒村抔見世開キ井上河内守寺社奉行ノ節同人ノ上夫ニ御差留有之候得書
内ニ一月寺差出候書面ノ趣ニテハ慶長度被仰出ニ武門不幸ノ士
ヲ再ビ士官ニ為立帰候儀専務ニテ右御掟ニ諸士提取カ寺内駈込
依願ハ問其起本可抱置者以辨舌申掠候者有之ニ於テハ早速可許出
ト由モ書載有之候得共右友鷲一件ハ不容易始末柄ニテ神谷轉出
奔ノ次第無憚節合相分リ候上ノ義ニ後度ニ可有之旨柄ニハ不相
聞得元来武家ノ外弟子取不致宗躰故向後萬一友鷲同様ノモノ
彼宗門ニ駈込心底申述忠心無余義ニ見極候節ハ召連奉行所ニ訴
出候得ハ子細モ無之候間以来右掟書取消候トモ又鷲一件同断ノ
趣意動キ候節ハ不相成且宝暦九外年本則取調ノ節鈴法寺晴山
書上ノ内侍ノ当座難逃訳有之者虚無僧ヲ相勤席ヲ待再ヒ士官ニ帰リ家名
ニイタシ武門不幸ノ者輩虚無僧ヲ相勤席ヲ待再ヒ士官ニ帰リ家名
断絶不致様仕候義往古ヨリ宗門ノ本意ニ立不幸ノ武浪ヲ普ク救ヒ宗
門武門ノ為ニ罷成帰俗ノ内御用モ可相立者候ハヽ實ハ御奉公ニモ
可相成旨書載有之候得共右書上ニ擿リ共節本則ノ義申渡
候ヌトハ不相聞候處難取用旨之達無之故奉行所聞濟ト心得居候哉

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

ミテ其段ハ無謂義トモ難申候得共一躰宗門ニ入候者武士道非義無之旨ノ
之証文ヲ永弟子ニ取候仕来ノ由戦争ノ世ハ武門不幸ノ者普化宗ニ入身
ヲ忍ヒ候類モ可有之右ヲ口實ト致シ宗門ト唱来候哉ニ候得共
御治世以後ノ處ニテ者夫ニ至家ニ於テ士道非義無之者ヲ流浪可為致
様モ有之間敷其身無非義断モ明白ニテ証文モ慥成難ノ不幸者ト
申ハ當人卸仕置ニ相成候弟子等親族扶助モ不行届農工商ノ徒ニ難
相成類モ可有之哉ニ候得共是以士道ノ覚悟相整非儀無之候ノ佛
門ニ不入候共身分ノ立行可相成何分モ近年ノ如ク卸仕置者出奔人
或ハ父兄ニ久離受候者共ノ住居ト相成可然トハ難申且寛政以来奉行
所ニテ宗法筋尋ノ上両役寺ヨリ差出候書留永調見候處是又不相当ニ
相見候廉ニ有之一宗ニ於テハ右答書差出奉行所ニテ永置候間則
公邊聞済ト心得遂ニ其通成行品ニ流弊モ相見難捨置候條一躰ノ
宗掟得ト不相糺候テハ容易ニ勘辨モ仕兼候ニ付一月寺鈴法寺両番

所詰合ノ者ハ宗法不審ノ廉相尋夫ニ為永調候處従来不良ノ者打續寺内ノ
記録何モ散失イタシ傳来ノ筋何分不分ノ由尤流弊ノ廉何レモ歎伏イタシ
旧記穿鑿ノ義精ニ申付置候内延享四卯年一月寺住職恭當著述
イタシ寛延三庚午年下總国小金大徳寺泯萬満寺安禅寺文ヲ加ヘ候一月
寺宗訓并同時代茶話集等ノ書探索ノ上差出右ハ濟門ノ義ニ付今地
院ヨリ相尋為永調勘辨仕候處法燈國師僧名覚心建長元年来国
ヨリ歸朝ノ時法伏理正宗想国作ノ四居士相従ヒ覚心ハ紀州由良興國
寺ニ住右四居士常ニ尺八ヲ好ニ覚心ニ普化振澤ノ詰ヲ相学ヒ本則ト
致シ普化禅宗ト唱一月寺開祖剳詮モ右ヲ覚候由ニ候得共何分傳来
等不詳ノ同寺家訓ノ内主人ノ恩ニ背ヒ祖ノ切ヲ空敷致或ハ仕置ノ
追放ニ逢身ヲ藏シ宗門ニ又先非ヲ不省禅規ヲ不守犯法得罪候モノ
多ク古人ト通ニ相違故旧記ヲ取調家訓ヲ残シ候由相見又ハ世ヲ
厭ヒ佛門ニ入候者ハ素ヨリ法度有之武家ノ憲章ヲ不憚放逸ノ

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

無衲ノ者會下ニ加ヘ申聞敷帰参ノ願不相叶間之隠家ト心得候者筋
違ニ付世ヲ捨候處無僧ハ佛門ヲ可忘處我門多帰参ヲ不相叶候容心ナ
ラス頭髪ヲ剃住持ト稱シ拡ヲ張リ挙ヲ振リ武州ノ隠家ト心得苗借
浪人ヲ役僧ト致シ宗義モ不辨俗氣我慢ニテ宗祖ノ法則不相立由書記
茶話集ニモ載ヌヲ相頼普化宗ハ本扉茅屋ニ居候共專禅林ノ規矩候
可申旨ニ有之古萬満寺者一月寺ノ菩提所ニ而茶當代萬満寺ヘ相頼聞
祖ノ遺風衰微ニ付古法ニ準シ同寺ヲ入院ノ節改テ受戒ノ上宗法ノ教受
候筈来代迄不乱様致度旨爲後証一月寺末頭下總国船橋清山寺戒
州神奈川西向寺連印ヲ以書付入置候赴ニ而右両書ニ同宗ハ臨濟ノ余流ニ
テ夫ヽ禅規等巨細ニ書載候得共慶長度掟ノ外ニ無之延享子
度ノ達可相守旨書記有之萬満寺ヘ出相紛候處無相違印
紙モ有之同寺ヘ
御朱印高七拾石紫衣モ相成候寺柄ニテ茶當心得ノ玄珠勝音
持ニ相聞候所其後定置候通濟門ノ宗意相学候者モ無之一宗ノ衰
微如何ニモ歎ケ敷躰ニ相聞猶法寺方古記録ヲモ取調候處一派ノ租法
總ハ優婆塞ニテ宝伏ノ門ニ入普化禅宗ヲ学ヒ其弟子密運武州堺玉
郡藤袴村虚空院ヲ開基致夫ヨリ十七世遠空同國比企郡葦草村
ヨリ引寺致シ天正ノ頃二十世月山同国多摩郡青梅新町ニ院跡ヲ引移鈴
法寺ト相改迫テ江戸ニ番所相建延宝六午年尋者ノ義ニ付奉行所ヨ
リ達受其後モ度々古躰ノ義有之享保十五戌年小出信濃守寺社
奉行ノ節上總国金剛寺玄秀ヲ殺害致シ逃去候旅役者又六常州
筑波普化宗古道寺ニ身ヲ隠シ罷在候由相聞寫有之正徳四午
年奉行所ニ而役寺ヨリ差出候受書モ延宝年中被仰渡候御書付ノ
通ト相見享保度酒井ノ修理大夫寺社奉行ノ節差出候書付ニ鈴法寺先
住ノ門臨濟宗ニ而出世ノ上和尚ニ罷成住職致候者不少當住雲休
ハ下總国東昌寺會下ニテ数年解中相勤長老ニ罷成候由有髪ノ者

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

八帰参或ハ構被差免還俗ノ外出世無之帰俗ノ望無之剃髪致候者ハ学
問仕其器量次第臨済曹洞ノ住職ニ相成候例数多ニテ本末トモ勿論
ヨリ剃髪為致候弟子ハ曹洞宗ノ會下ニ於テ出世致候旨書記且又元
文五申年牧野越中守寺社奉行ノ節尋合差出候書付ニ本寺住職
ハ古来ヨリ定ノ通一派ノ末寺并本寺ノ弟子ノ中ヨリ撰ミ禅宗ノ寺院ニ限
法ハ其師ヨリ相受住職致門弟ハ往古ヨリ侍ノ無據訳有之大法ヲ不背
不幸ノ士ヲ普ク救ヒ相續仕来寺ノ住職相續仕候宗寺傳法ノ尺ハ永
有髪ニテ執行仕時節ヲ以大望成就為仕再士官ニ帰俗為仕候儀宗門
ノ本懐ニ仕此段延宝五己年宗法吟味ノ節申立候趣寺社奉行
於列席不幸ノ侍共門弟ニ罷成候執行ノ後帰俗仕候由其内ニ徃昔
ヨリ由緒正敷侍ノ筋モ可有之候帰俗為致侍ノ家名血脉ノ断絶
無之様ニ仕候義永ク天下ノ武門ノ助ト成其子孫ニ至迄用ニ可立
者有之候得共宗門ハ御奉公ニモ罷成候間宗法正敷仕候様ニ渡宗法ノ書付
相渡依之門弟ハ大格中小性行上侍ニテ不似合儀ニ不仕候哉ト其起本相尋
候上親類又ハ懇意ノ者等証人ニ致シ門弟ニ契約仕親類書以下町受人等
ノ者門弟ニ不仕若無據訳有之輕者百姓町人等慥成証人御座候得ハ召
仕ニ暫差置十五歳以下ノ者門弟ニ仕候旧例無御座候有髪ノ門弟剃髪
願候得ハ受戒剃髪為致清僧ニ罷成候由書記有之候ニ付取調
相考候処此書上ニ延宝度控書相渡候節口上ニ而申聞候段ハ其節
ノ書留モ無之年前勝手ノ申立ニ相聞右躰ノ宗法有之トノ義外ニ擬
無之難取用尤宝暦度晴山書上候モ全此元文ノ書面ニ擬ト致シ候
候義ト相見鈴法寺方ニテ末流等ニ相網候モ延享宝暦ノ申渡ヲ第一
ト致シ慶長掟書ノ沙汰并勇士隠家等ノ趣意更ニ無之歟ヲ尋候為
メ宗門ニ候類ハ相見候得共素性ヲ不顕抔ノ廉ハ相見不申門弟共番
所ニ於テヨリ作業掟書等モ江南ノ門徒ト相認一躰禅家ノ風俗ニ

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

有之且前書ニ上ノ處ヲ以テ相考候而モ右宗門禅學専門ノ段ハ相違ナク
且又吹合所ト唱両寺用連共又ハ俗人ニテ本則申受竹第ト唱候者市中
三テ尺八指南致候處享保二十卯年一月寺方ヨリ鈴法寺ニ永置候印紙ニ
一月寺方ヨリ江戸中ニ誓古所相定法外ノ義ノ由相談ノ上誓古所為相
止可申ト有之然上ハ往古ハ更ニ無之義ト相見候處其後両寺如何申合候哉
宝暦九卯年九月吹合所ノ者共ヨリ一札寺方ニ永置候書面ニ私共義去ル未年
三月中吹合組合御定其後戌四月両寺ヨリ差許ノ書付相渡候世仕候所
宗門愛ニ出来ニ付
公邊不相濟吹合ノ者共諸事不行届ニ付免許書付永上ニ可相成處一言
ノ申訳無之候得共宗恩ヲ以露命継居候世助力ニ離レ及愁傷
候間以前ノ通免許受度旨ノ一札有之翌辰年五月ノ書面ニ去卯十月奉
行所ヨリ申渡ノ書付並一米知仕候尺八指南法式相守候ト同様尋者等
有之節俗躰ノ者入用ノ節ハ早速可相勤旨連印一札有之候者何共不都

合ニ相聞且年月不知奉行所ニ書出候和ニ取名印ト申者何等所ノ誰ト申候
相認其師匠印形致シ相渡置年ニ正月七月ニ書改日限過候得ハ数ケ所書所
有之候ト相見同ニ子年江戸番所ノ数尋ニ付差出候書付ニ鈴法寺ト月寺
布田安樂寺私儀清出寺ハ
権現様御代ヨリ又今迄武州神奈川西向寺同國土岸村松源寺ハ二十三年
以前寅年武州柳沢邑澤水寺下總法珠藏村観念寺ハ八年以前巳年同
国尺司喜村東陽寺ハ去亥年何レモ奉行所ニ届ノ上取建番虚無僧六人
ツヽ都合廿四人相詰右番僧名前相届置出入名前替其度ゝ書出候事
ノ由書上且番虚無僧法式相定夫ゝ和融致畢竟ノ者吟味可致旨正徳
度両役寺申合奉行所ニ一札差出置江戸出番ノ僧番所届無之内
御府内修行致間敷旨享保二十卯年両役寺申合モ有之候享三ー
寅年安樂寺番屋虚無僧宗雲似セ虚無僧差押身元ニ預置候
旨奉行所ニ届書モ相見鈴法寺番所控書ニモ六人ノ内人ヲ撰番頭ヨ

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3
ガラス使用

役僧ニ相定或ハ両役兼帯モ有之由右ノ通番僧ノ名目ニテハ自然放逸ノ義
モ薄ク取締モ宜紛敷者穿鑿モ行届候義ニ相聞候ヱ其後両役寺ノ
外番所モ相止ミ猷ヲ尋候類ノ外記録ニ泥ミ猥ニ俗人ヨ本則附与致シ宗縁助
吹ノ名目ヲ以身分有之者御府内托鉢修行ニ出素ヨリ宗風不辨且ハ奢侈遊興
ノ心底故修行ノ作法猥ニ相成或ハ義服ヲ着作法ヲ相咎可申モ素ゝ両番所ヘ
附届イタシ置候事故其侭打過候意味モ相聞一躰普化宗ノ義者減罷不取扱
多分最寄臨済宗寺院ヲ菩提所ニ相頼尤諸國ノ内最寄ニ済家無之場ニ
ハ稀ニ他宗ヲ相頼候モ有之由ニ相聞然上ハ武家ノ筋目ニ候共佛門ニ入候
後ハ武邊ノ意ヲ打捨一向ニ禅氣ヲ相学候事ト致シ素性ヲ難顕ト申
義モ宗門ノ掟ニ不相見全世ノ文難成者ノ申唱ト相聞候間以来無義申
唱間敷旨可相達右ノ通相成候得共宗意モ相愁緩令禅氣ヲ不学得
候共勇士ノ隠家トノ唱ヲ差留候故乍強ナル事ヲ宗門ノ掟ト相唱不法申
募候義難相成世ノ害ヲナシ候事ニ至間敷其内若神妙ノ者モ候ハヽ自然

宗門モ相整可申哉又別冊入御披見候延宝五巳年申渡ノ義者於共方書留無
之候得共素ヨリ疑敷筋不相見両役寺ニテ同年并貞享四外年享保七寅年相
定候ケ條其外年ミ役寺ニテ既ニ下ニ申渡候書付類是又不相当ノ義モ無之候間其侭
差置宝暦九卯年申渡ハ書留モ有之無相違候得共右ノ内自今以後両寺ヨリ本
則附與ノ義士官ノ者望ニ於テ其主人呂篤ト相糺為背法出奔人等ニ無之
候ハヽ慥成証人取之可任其届百姓町人等ハ仮令只管相届候共畢竟遊戯
ノ義ニテ無益ノ事ニ候得ハ停止ト有之右附箇條ニ本則所持ノ者虚無僧之
姿ニテ形ヲ相忍不申候而者不叶子細有之番所ヨ罷越相頼ハ無紛候ハヽ
ノ日限ニ任望可遣其日不得本望候ハヽ又翌日可貸遣連日任其意置候
義無用従行被候ケ角兼紀仮ミ遊行ノ筋ニ茂リハ兼テ附与致置候本
則可取戻ト有之ハ其節鈴法寺﨑山書上ノ内武家ノ俗人歟ヲ尋及
族元来ヨリ本則受罷在虚無僧ノ姿ニテ毎日罷出及者当時三人
有之何レモ奉行所ヨ申立帳面ヨ附差上リノ義ニテ其外尋者ニ付武家

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

家中ヨリ頼ヘ罷在候者モ候旨申立ノ所ヲ以取調申渡候義ト相聞ヘ候
歟ヲ尋候タメノ趣意ニテ其子細ハ百姓町人ハ遊戯ノ義無益ト有之右躰尋者
ノ外武家ニテ本則受尺ハ修行ハ矢張遊戯ニ相當猶更無益ノ義且嘯申
立ノ内歟ヲ尋候者元来ヨリ本則受罷在候ト申義并檀家無之宗門敬事
則ノ者無之而者志モ無之綱頭ハ御用難相勤トノ義ヲ取用候筋共不相見
歟ヲ可尋者不幸ノ變ニ逢ヒ候事ニテ勤仕ノ身分兼テ右ノ心掛ニ本則受
尺ハ修行イタシ罷在謂モ無之近来武家ノ身分ヘ猥ニ本則相渡帯刀モ不
致候段者何共不取締ニ相当既ニ今般相糺候得共真實ハ入宗ノ弟子ヘ候
本則不相渡取名印ト唱候書付相渡候由ニテ宗門第一ノ趣意書載
候本則ヲ入宗ノ者所持不致段更ニ不筋立事ニ付以来ハ為相改候積
然ル上者武門ヲ不放者ハ形ヲ忍可遁本望者ノ外一切本則不相
渡様可致且番所ト唱候ハ一宗ノ内両役寺江戸番所而已限リ候
義ニテ御当地ハ諸國ノ者入込居候義故歟ヲ尋候者モ形迄相忍

候故ヲ以宝暦ノ申達ニモ番所ヘ罷越相頼候ハヽ其意趣得ト承届ト有之候
義而其外ハ本則附与致間敷事ニ相當末文ニ今般相改候条諸國本則
差出候程ノ寺院ヘ可相觸ト有之ハ外ヽニテハ右取計雖相成筋ヲ為心得
候義ト相聞候処今以諸国ニテ宗門人別ニ不入者ヘ本則相渡候矢何分筋
合相當不仕遊戯ノ者多弥宗法モ猥ニ相成悪徒寄集候事故今般右之通リ
宝暦度申渡ヲ旋ト仕分ケ仕御當地ニ於テ尋者ノ外一切俗人不立交様仕右
ノ者ハ必三奉行ヘ帳付致シ名前モ相分リ候者共故本則相渡候節ハ其段月
番ノ寺社奉行ヘ可届出段申渡置且一躰ノ人別近年ノ如ク世ノ交難相
成者宗門ニ立入候而ハ武家悪徒ノ住所ト相成難捨置年々未参
ト唱末寺ノ分三月中両番所ヘ集會致掟書為讀聞候仕来ニ有
之候間以来ハ諸国末寺配下共新規入宗ノ者ハ身元俗名法名共書記
前年ノ人別増減相改翌年三月中迄両番所ヘ差出両役寺門
弟ヲモ同様取調一宗人別帳年々四月中奉行所ヘ差出候様致度奉願

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3
ガラス使用

御構者等ハ素ヨリ無頼ノ者ハ宗不相成於諸国虚無僧共及不法
候義モ不至以後流弊ニ及間敷且又虚無僧共衣服ノ義ニ付度々申渡
モ有之候處今般内実ノ様子相考候得ハ諸藩本隠居其外藩中有禄
ノ者遊興ニ罷出候故ノ義入宗ノ者而已ニ相成候得ハ自然義服着用モ相
止可申延宝度申渡ノ節書付ノ外不幸ノ士門入後帰俗為致家名断
絶無之様申渡候旨両寺ヨリ先年書出置有之候間今般相糺候處前書
之通右記録モ無之由全手前勝手ノ申唱不筋立義ニ相聞候間右ハ以来相
唱申間敷旨可申渡於然ハ吹合所用達杯ト唱一旦入宗ノ者帰俗
致妻子ヲ持或ハ吹留候ニ付本則并免状等申受宗縁助吹等ノ名
目ニテ市中其外ニ罷在尺八指南ヲ渡世同様ニ致武家ニ不限町人モ
教遣候段甚猥ニ間敷義ニ有之俗両番所ニ右俗役吏ニ無之ヲテハ
宗用差支候段無掟筋モ相聞候間以後用達両人ツヽニ限家来ノ名
目ニテ妻子有之分ハ外宅為致吹留ハ勿論都テ法要之義取扱候義ハ

為相止宗縁助吹等ノ名目ニテ俗人ノ身分ヲ弟子ニ致候儀ハ決テ致間敷全ク
入宗ノ者ニ限其師匠等ヨリ可教遣旨申渡且諸国旅行及候節百姓共ヘ
子タリケ間敷申掛又ハ木銭米代ヲ以止宿御用通行ニ類シ及不法候義等
モ外諸宗僧侶同様ニ可心得旨相達置候ツヽ宿村取締モ附可申且又
出張役所ト唱候義前ニハ無之全近年ノ流弊ニテ其所領主等ヨリ
ノ頼ニ寄宗門為取締宗役ト唱候者差置候義ハ有之由候得共普化宗
寺ノ家来俗人ニ而宗門ノ義ヲモ是迄為取扱候由ニ候得共右ハ不相当ノ筋
ニ付以来宗法筋為取扱申間敷且門弟共修行先他會下ノ者不埒
及見候節ハ寺又ハ旅宿ヘ連参糺ノ上一札取之印鑑宗員取上追却
致シ右之趣先會下ヘ申達又ハ先會下ヘ引渡彼方ニテ宗罪致或ハ宗罪
後先會下ヘ相達候仕来ノ趣ニ候得共門弟ノ身分ニテ宗罪申付候段
ハ不相当ニ付以来門弟共修行先他宗會下ノ者不法見受候節ハ其師
匠ヘ掛合取調可申遠国ニ候ハヽ最寄同宗寺院ヘ引連寺役相勤候

者立合ヲ諸取調次様可相達其余望密會充右ノ拇指ヲ切追却致又ハ
軽重ニ依右一方ヲ切士宮ニ相帰太刀打不相成様右余ヨリ仕来候由寛
政六未年両寺出役ヨリ答ノ趣モ有之次第得共今般乱ノ上元録ノ
右躰ノ仕置申付書留モ無之右類ハ必俗人ノ引合次第一宗
限ノ取計ハ不相当殊ニ寛以前延宝ニ已年相渡置候掟書モ小科ノ
者ハ本寺ニ於可任差置大科ノ族ハ奉行所ニ達落着可申付理不
尽ノ働仕間敷旨ヲ有之右小科ハ一宗追却ニ心得火印其外支躰
ニ及仕次宗科ハ其度ニ相伺次第ニ寛文奉行所ニ為差出次事ト致
次方可然哉ニ奉存候依之御窺書差一月寺鈴法寺番所ニ
達書按其外先見合書物相添此段相伺申次

未五月

書面蕃化宗流弊改革ノ義都テ別紙見込ノ通取計一月寺鈴法寺
ニ可申渡旨ニ是又別帋之通夫々可申渡旨下知有之次事

東京 帝国

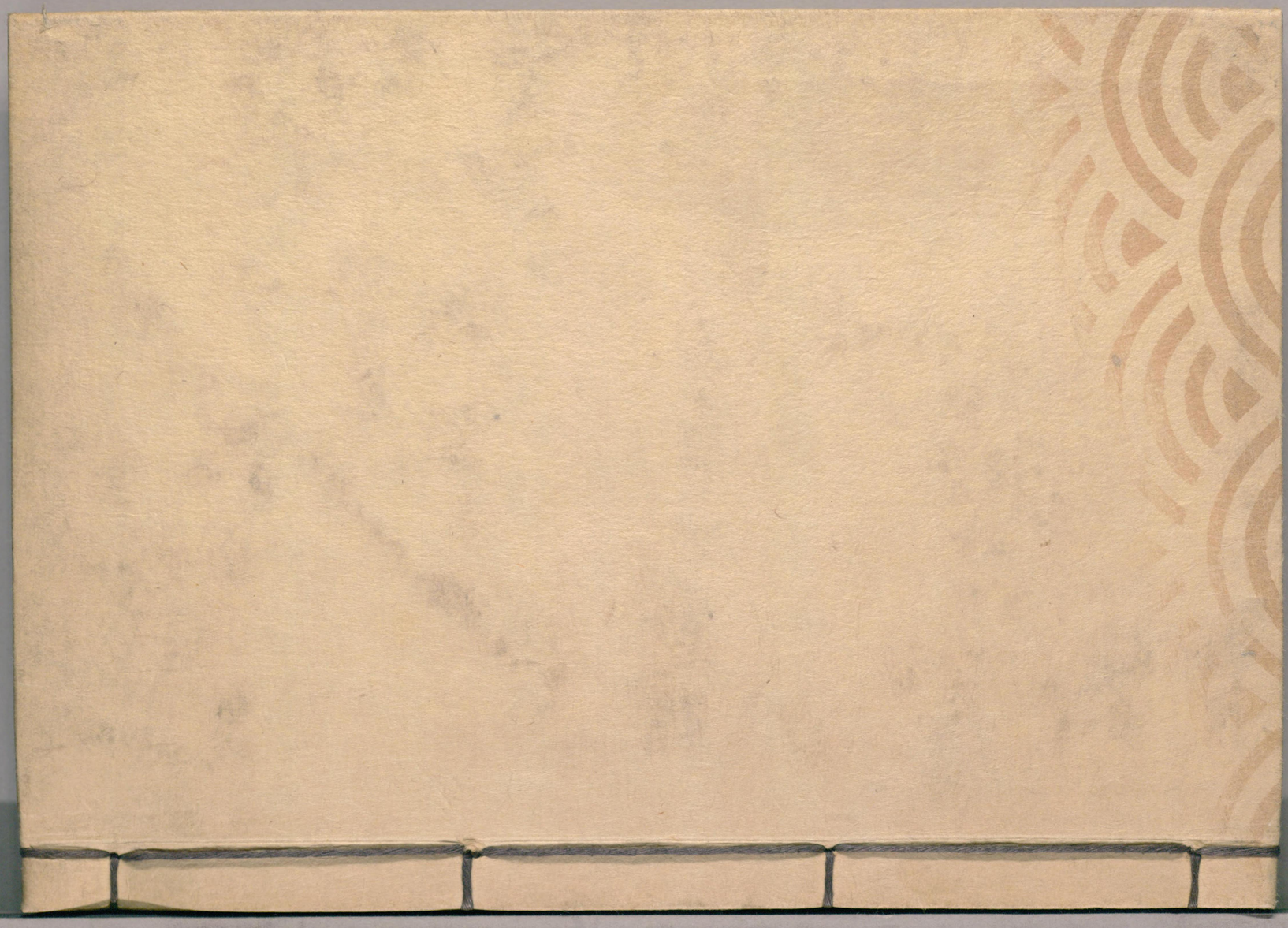
国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用

815
3

国立国会図書館　タイトル『撰要類集』 請求記号 815-3

ガラス使用



ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『撰要類集』　請求記号 815-3